

The EIKO ALUMNI

Vol. 100
October 2023



同窓会会長就任にあたって

去る5月13日の2023年度栄光学園同窓会定期総会において、同窓会会長に選任いただきました37期の河原光博です。山田前会長を始め多くの先輩方が築いてきた当会の輝かしい歴史と素晴らしい伝統をさらに発展させ次の世代に引き継いでいけるよう、同窓会執行部・幹事・常任委員・事務局等と力を合わせ、全力を尽くしていく所存です。会員の皆さま方には、より一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

母校栄光学園も大船移転から来年で60年となり、この4月に71期生が同窓会員になりました。会員数は増加し続けており、1期から71期まで1万2,081人の会員が集う組織となっています。

新執行部は、28期の高橋副会長・30期の米山総務部長以外はグスタフ・フォス神父様が栄光を去られた後に入学した、「ポスト・フォス世代」です。私たち37期生も、フォス先生が理事長を退任された翌年の1983年に入学しています。とは言え、当時は大勢の神父様が修道院にいらっしや、1947年の創立初期から活躍された先生方も現役で教鞭をとられていました。校内にも、様々な場面でフォス先生を感じるが多かったように思います。

学園の変わらない軸

現在、修道院は閉鎖され神父様もいなくなり、大船校舎は2017年に木造2階建ての新校舎に変わりました。さらには上智学院に法人合併されるなど、この10年で学園をめぐる環境は大きく変わりました。先輩方の中には、母校の行く末を心配される方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

私も諸先輩方と同じく心配していた一人ですが、10年前に長男が67期生として入学したことをきっかけに、保護者として30年ぶりの「第2の学園生活」を送ることができました。環境は変わりましたが、私の在学当時と変わらない学園の温かい教育方針に、保護者として安心してお任せすることができました。

振り返ってみると、中高時代に外国人の神父さんが多数いる環境で学べたことは、ダイバーシティ(多様性)を体感する素晴らしい経験だったと思います。現在はイエズス会士の先生はいらっしゃいませんが、代わって栄光OBでは無い先生が多数教鞭をとられています。中には、サラリーマンとして社会人経験を経た先生や女性の先生も数多くいらっしや、多様な価値観に触れる機会は一層増えていると感じました。

母校栄光学園が、中高6年間の大切な時期に、受験勉強だけではない大切な価値観を学ぶ環境である点は昔も今も変わりません。また、あくまで生徒の自主性を尊重する先生方の姿勢は、私立学校を取り巻く環境が困難を極める中で、栄光学園の独自性を際立たせていると思います。

同窓会活動は新たなステージへ

ここ数年の学園の変化とともに、同窓会の活動も新たなステージへと変化しています。

山田前会長の任期では、同窓会ホームページの全面刷新と運用体制の整備を行いました。Web版同窓会名簿”EACON”も、システム改修を重ねながら、冊子版ではできなかった検索機能の充実により、若手OBにも活用いただけるWeb名簿になっています。また、SNSも活用し、Facebook同窓会公式ページで記事を配信中です。

同窓会報“The Eiko Alumni”も、昨年4月の第97号からデザインを一新し、フルカラー版にリニューアル。会員の皆さまのご期待に少しでもお応えすべく、これからも変わり続けていきます。1958年に創刊したAlumniは、本号が第100号の記念号です。栄光学園同窓会の歴史が詰まったAlumni「65年の歴史」を振り返る特集記事もぜひご覧ください。

また、イエズス会校4姉妹校同窓会の共同企画イベントの開催や、各地方支部の設立支援の取組みなども進めております。

来たる10月と2月。対面で集いましょう

2023年度は同窓会創設70周年と同窓会報“The Eiko Alumni”の100号発行という、大切な年です。同窓会70周年記念事業としては、卒業2年目の70期生が中心となり10月に栄光学園で開催する「スポーツ大会」と、2月に横浜近辺で開催予定の「栄光学園同窓会70周年記念パーティー」の二つを企画しています。会員の皆さまのご期待に沿えるよう、執行部一同務めて参ります。至らない点も多いと存じますが、何とぞ暖かいご支援と積極的なご参加をお願い申し上げます。

また、本任期の2年間では、様々な点で「過渡期」である当会にとって、今後の基盤をつくる大切な期間と認識しています。まずは会費について2022年10月より“財務検討特別委員会“にて検討を進めています。本号にも“財務検討特別委員会“からの中間報告を掲載していますので、どうぞご覧ください。同窓会費は、1986年に現在の「年会費2,500円・4年に1回1万円納付」になって37年。環境の大幅な変化とインフレ等により、現在の納入率水準・会費水準が今後の会運営にマイナスの影響を及ぼすことがあってはなりません。”財務検討特別委員会“の検討内容を踏まえ、今後数十年の財務基盤の安定運営に向けた方策を検討し、導入する所存です。導入に向けては、次回以降の総会にて会員の皆様の決議をいただける様、今後の“The Eiko Alumni”等で検討状況をお伝えしていきます。



栄光学園同窓会会長 河原光博 (37期)

学園よりご挨拶

今年度より、教務部長を務めております石川昌紀です。本校の38期生で、前任校で6年間務めた後に母校の栄光学園に赴任し、今年度で19年目となりました。

長く進路進学委員会に所属し、昨年度までの4年間は進路進学委員長として、主に高校3年の生徒たちの進路指導に当たってきました。担当教科は国語ですが、進路担当ということで上級(高2・高3)を受け持つことが多く、今年度(高3の古典担当)を含め10年連続して上級学年を担当しております。今回このような形でご挨拶の機会を与えていただきましたので、OBでもある一教員という立場から見た学園の近況について、お伝えしたいと思います。

77期生が入学しました

はじめに、今年度の新入生(中学1年)についてですが、彼らは77期生です。思えば39年前、私が新入生として入学した最初のクラス(中1A)の担任(当時は「組主任」でした)は、本校1期生の遠藤恭先生でした。我々中学生の目から見た先生は、親よりずいぶんご年配の先生といった印象でしたが、今の私が当時の先生と変わらない年齢になったことに愕然とします。また、私が生徒時代に直接教わった先生で今なお現役なのは数名だけになってしまったことを思うと、改めて月日の流れの早さを感じます。

「栄光学園のダイバーシティ」の今

さて、今年度は、例年になく多くの新任教職員の皆さんをお迎えしました。非常勤講師としてベテランの先生方をお迎えし、私自身が学ばせていただくことが多くあります。また、事務室にも事務統括と会計室担当のお二人をお迎えしました。そして、新任の専任教員として、6名の先生方をお迎えしました。新任教職員がこれほど多かった年というのは私の記憶にありませんので、恐らくここ20年ほどの中で最多になるのではないかと思います。

また、その人数もさることながら、私自身にとって驚きだったのは、専任の6名のうち、実に5名が女性だということです。我々38期生が栄光在学中、校内に女性の姿があったのは保健室と事務室だけでしたので、その頃の自分が今の校内や職員室の様子を見たら、さぞかし驚くのではないかと思います。

当時は多くのイエズス会の神父様方が奉職されており、各学年どこかの授業に必ず神父様のご担当があり、それも英語と倫理以外のいくつもの教科を外国人の神父様が担当されていたことを思うと、栄光の風景もずいぶん変わったものだと思いますが、私自身は、諸先輩方はもちろん、若い先生たちからも多くのことを学び、さまざまな形でお助けいただきながら仕事ができていることを、ありがたいことと感謝しております。

栄光祭「高3アロマ」の今

今年度の栄光祭は、コロナ前の2019年以來4年ぶりに入場制限なしで実施することができ、多くの方々にご来場いただきました。

ここでは、高3の「アロマ」について、ご紹介します。

同窓会の皆様にはお馴染みのアロマですが、近年は喫茶店だけでなく、生徒たちが趣向を凝らしたさまざまな企画を行ってきました。またコロナ以来、飲食物の提供ができなくなっており、今年度はいくつかのテーブルに数人ずつの生徒が待機し、学校生活についての来場者のご質問にお答えするという催しを実施しました。私もその様子を何度か見に行きましたが、いつ見ても大盛況で、多くの小学生とその保護者の方々(近隣の学校の女子生徒さんたちも多かったようですが)にお集まりいただき、大好評を博していました。

入試相談室ではフォス先生のパネルを展示

実は私自身は「入試相談室」の担当でしたが、ご相談に見える方が例年に比べてやや少なめだったのは、皆様がアロマの方に足を運ばれた結果という面もあったのかもしれませんが、高3の生徒たちが、図らずも栄光学園の広報活動に一役買ってくれたのだと思えば、これもまた、ありがたいことと感謝しなければならないことなのでしょう。

なお、今年度の入試相談室では、同窓会にご協力いただき、フォス先生の略歴やお言葉の数々を掲載したパネルを設置し、お待ちいただいている間にご覧いただくことにしましたが、幸いこの企画は非常に好評で、相談者の方々だけでなく、在校生やその保護者の皆様にも多くご覧いただくことができました。最後になりますが、この場をお借りして、御礼申し上げます。



栄光学園 教務部長 石川昌紀 (38期)

アラムナイ100号までの道のり

【特集】

1953	1958	1959	1969-71	1979	1981	1983				
Taur	Ofuna			Alumni						
[号]	1	2 3	4	5 6 7 8 9 10	11	12 13	14	15	16 17	18
同窓会発足。会報誌「波濤」創刊。	「ALUMNI」創刊。B4／4ページ。	名称が「The ALUMNI」になる。	紙面が初めて6ページに。	蛇腹折のリーフレット。	7年度ぶりに復活。B5サイズ／12ページ。	表紙デザイン一新。A5サイズ／16ページ。				
野村篤(1)	佐野光雄(4) 遠藤恭(1)	阿部雅昭(2)	森成一(1) 菅田栄一(5) 廣瀬徹也(3) 細矢治夫(3)	湯沢三郎(6) 遠藤恭(1)	湯沢三郎(6)	鈴木宙明(4) 宇多文雄(8) 安達一彦(13)				
【同窓会会長】										
	鈴木宙明(4)	大沢秀人(1)	花井勝三(12) 湯沢三郎(6) 広瀬徹也(3) 細矢治夫(3)	新井隆(14)						
	【編集人】									



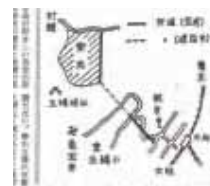
記念すべき創刊号

記事には「会報名は「栄光学園同窓会会報」では、長すぎてタイトルのデザインができないので、「ALUMNI」とした」との記述。
はやくも、会費の納入率の低さを憂いた記事が。同窓生の就職先、就学先などの情報盛りだくさん。母校の近況として先生方の結婚情報も！！



第4号 “The Alumni”

NewYorkTimesを連想させるタイトルロゴ。就職先の分析では、「意外と少ない公務員」の見出し。写真は「栄光海の家」。企業広告の掲載もある。



新校舎の大船移転計画を伝える。(第7号)



大船校舎の情報満載。新校歌と共に、先生からのメッセージも(第9号)

名称が「The EIKO ALUMNI」になる。
表紙に同窓会マーク。

号外。フオス初代校長の訃報を伝える。

沼田安弘(2)

宇多文雄(8)

後藤典彦(11)



新キャンパスでの体育祭。広さを感じる写真。歩く大会は馬堀駅から逗子の聖マリア学園まで。但し、1968年は風邪の大流行で中止。随所に学園紛争の影が。(第11号)



ウルフ先生の戦中・戦後期から。感謝状は“挺身初期防火に敢闘…”として、戦中の警視庁から送られたとのこと。(第17号)



天狗さん。ウルチ。古希おめでとう!!(第20号)



26・27期歓迎会開催
第13号 7年ぶり発行

7年ぶりの発行となった第13号。内容の充実度に気合を感じる。当然、名簿の情報更新の声掛けも。右の写真は、長浦湾の自衛隊の敷地内に造成された“栄光の園”と名付けられた日本庭園。



完成した諸磯の臨海教室。起工式から竣工までは4年がかり。(第18号)



白カバン談義
(第35号)

田浦キャンパスと大船キャンパス徹底比較。(第24号)

紙面で初めて、横書きの記事が登場。

湯沢三郎(6)

沼田安弘(2)

後藤典彦(11)

紙面構成が全面的に横書きに。

後藤典彦(11)

花井勝三(12)

28年ぶりにB5サイズに。表紙はIndex。40ページを超えるボリュームに。

高須保(13)

36 THE EIKO ALUMNI 36

マヌエル・シルゴ先生 (英語) (第36号)

鈴木一雄先生 (英語) (第37号)

小笠原長生先生 (美術) (第38号)

浅野明先生 (生物) (第39号)

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

第36号 “The EIKO ALUMNI”
同窓会誌の名称変更。表紙デザインも一新され、4段組から3段組に。同窓生の活躍を深掘りした各種の記事の充実、栄光生の凄さを感じる。

第37号
「恩師・旧師再会之譜」は学園創立30年にあたる第18号から第39号まで続いた連載。

第38号
創立50周年の記念コンサートを鎌倉芸術館大ホールで開催。記念コンサートの演奏はCDにされた。(第49号)

第39号
「栄光の未来」に向けて

第40号
「ミレニアム 大コンパ」の大盛況を伝える。コンパのスローガンは、「栄光SpiritのPast, Present & Future」(第55号)

第54号 横2段組み登場
同窓会ホームページの開設に伴う記事の連動性などから横組みを採用。同窓会にホームページ担当として“広報部”を設置とのこと。

100号記念。

全頁フルカラー化。表紙デザイン一新。

紙面にカラー写真を初採用。

デザインを維持しつつA4サイズに。

河原光博(37)

山田宏幸(30)

菱沼徹臣(17)

村根基彦(37)
川村貞知(37)

高橋英治(28)



高1ゼミで“卒業生が授業”の試み始まる。(第57号)



15期の同期会に多くの先生がご参加。文字は大きなB5サイズに(第69号)



第83号 誌面がA4版に同期会の集合写真が多数登場(写真は最多の57人参加の22期)。原稿段階ではカラーですが、冊子体ではまだモノクロ。



コロナ前の37期の同期会(第92号)



コロナ禍での8期のオンライン同期会(第94号)



栄光坂の崩落現場と復旧工事を伝える(第63号)



史上最多の60ページとなった紙面のめは、“Eiko High Forever”の原曲探し。(第82号)



旧校舎とのお別れ見学会を伝える(第84号) 新校舎のお披露目を伝える(第87号)



全誌面カラー化。(第97号)

編集こぼれ話

会報100号発行にあたり、歴代の編集人の方にお話を伺いました

村井基彦(37期)(以下村):

97号(2022)から編集を担当しています。この度はよろしくお願ひします。早速ですがお二人が編集にかかわられたのは、どの頃になりますか?



花井勝三(12期)(以下花):

64号から82号まで(2005~2014)19回担当しました。

高橋英治(28期)(以下高):

花井さんから引き継いで、83号から96号まで(2015~2021)14回担当しました。



村:お二人で、期間にして約15年、号数ではおおよそ3分の1をご担当されているわけですね。いきなりになりますが、思い出に残る記事といえば…

高:ひとつに絞るのは難しいですが、新校舎建て替えに向けて自分の過ぎた旧大船校舎が取り壊されている第84号表紙の写真を撮影したときには、なんとも寂しい気持ちになりました。いっぽうで、第88号に掲載した学園創立70周年記念コンサートとパーティが大きなイベントとして行われたので、その紹介記事も強く印象に残っています。

花:記事ですか…記事というよりも、私は野球部出身なのですが、新聞や雑誌を編集した経験はなく、学校の作文コンクールでも並みの文章力しかないことは証明済みだったので、名文を作ろうという気は全くありませんでした。だから、立派な記事が書けたという印象は全くありません。ただ、てこずったなあという印象の記事はあり、教訓として今でも残っています。

村:学園の節目の報告は印象的になりますよね。同窓生からの思いのある投稿や、非常に精緻な文も寄せられますので…

花:栄光OBで社会的に名声のある人はたくさんおり、時に投稿してくれることもあります。私もそういう投稿を受け、アラムナイに掲載したところ、一読者から「アラムナイはいつから有名主義になったのか」というクレームを頂戴しました。名声があらうとなかろうと、卒業生に投稿していただいたものはほぼそのまま採用していますが、読者側にいろいろな受け止め方があることを再認識し、その後は、一つ一つの記事の掲載に神経を使うようになりました。

村:苦い思い出はどうしても印象に残りがちですね…。編集するときに気を使われていたことはどんなことでしょう。

花:編集を任された当初は、従来のものが発行できればそれでいいという程度の考えでしたので、編集方針などありませんでした。けれども、編集方針がないと、人にどんな記事を書いてもらいたいか、どんな長さ・深みで書いてもらいたいかを具体的に言えないので、ド素人ながら編集方針を考えるようになりました。その時思いついたのは次のようなことでした。

・「栄光で学んだ」ということが唯一無二のアイデンティティなので、卒業生にとって興味のあるもの、読んで心地いいものを提供しよう
・政治・思想は避けよう
・説教とか主義、主張の類も避けよ

う・栄光学園には係累が及ばないようにしよう

概ね、このトーンで毎号編集できたと思います。

高:その編集の思想は引き継ぎつつ、10000人以上の異なる世代の卒業生にむけて、大先輩方から卒業したての若い方まで伝える内容を意識していました。

村:実は、お二人が編集している期間に、アラムナイのページ数が増えているんですね。最も多い時は60ページにも及んでいるんですが、実際に編集をする上ではどんな点で苦労されましたか?

高:どうしても編集を分担して行うことが困難だったため、入稿前は徹夜作業とならざるを得なかったのは肉体的に辛かったですね〜。Wordファイルで編集するときには、写真などの位置を決めるアンカーポイントが設定されますが、これが繊細で、しょっちゅう写真の位置がずれ、文章の途中に不要なスペースが空き、総ページ数が狂うため、一冊のアラムナイをひとつのWordファイルにまとめる最後の作業が一番の難関でした。

花:同窓生から記事が全く集まらなかったことですかね〜。それで、我田引水ながら、先ず、自分が関係したイベント(同期会とか野球部関連とか)をなるべく面白い記事に仕立てて掲載することにしました。記事は少々長くはなりましたが、写真を何枚も貼りつけて会場の雰囲気が出るように工夫しました。多くの期やOB会に思いが伝わって同期会が活発に開かれ、楽しいレポートが一杯届くようになってくれればいいとの願いを込めました。同窓会の役員の方にも同期会をやったらすぐ記事をくださいねとしつこくお願いしました。その甲斐あってか、同期会報告はぐっと増え、紙面を増やして全部掲載しました。その結果、アラムナイが古い期から若い期までの全ての卒業生の新聞という様相が滲み出てきたように思いました。高橋さんとも共通ですが、編集時間の問題は大いにありました。毎号にかかる時間は50~60時間。勤めながらこの時間を捻出するのは大変で、夜中、家で作業をしていると、「お父さん、睡眠削ってそんなこと、やってるの」と言われるので、勤務時間の後オフィスでちょこっとやったり、出張の折、ホテルや飛行機の中で作業したりしていました。最後の校閲や印刷所との打合せには休暇を取って対応したこともしばしばでした。

村:ちなみに、その大量の記事の編集ではどんなツールを使われていたのですか?

花:Wordを使っていました。当時、蓮沼さん(17期)がホームページを担当していて、彼がアラムナイ用のテンプレートを作ってくれたので、ただひたすらこのテンプレートに投稿を落とし込みました。写真の挿入方法もできるようになり、一人前の編集長になったような気がしてきました。途中から投稿記事をDropboxに収めるようになりました。これにより、編集スタッフ間で記事や写真の受け渡しをする必要がなくなり、効率的になりました。当時の分担は、写真編集は蓮沼さん、文章の編集は私が主務でしたが、新井さん(14期)がよく手伝ってくれました。また、学園より学園ニュースをデータで頂戴して、八木さん(9期)に取捨選択していただき、アラムナイに取り込みました。Dropboxに収められた記事は先ずホームページに掲載されたので、ホームページのアップデートにも大いに寄与したと思います。

高: 私のほうは花井さんからフォーマットとしてWordファイルを預かりましたので、それをそのまま使っていました。印刷所にもWordファイルで納めていました。

村: Wordは便利で扱いやすいですね。ただ、高橋さんも苦労されているように、写真を入れるとページレイアウトのコントロールが意外と大変で…。そういえば、今回、歴代のアラムナイを見ていて、花井さんのお名前が10号で出てきているのですが…

花: それはですね。当時大学の2年生で期委員だったこともあり、呼びかけに応じて会合に出席しました。そこに6期の湯沢さんが途中まで編集されたアラムナイの原稿もあり、湯沢さんが欧州に赴任するので誰かに引き継ぎをとなって、「君、学生だから原稿を印刷所に持って行ってほしい。埋まっていないところがあるから、君が適当に埋めて完成させてほしい」と言われて。あれよあれよと編集に巻き込まれてしまいました。編集後記がすっぽり抜けており、訳もわからず自ら書いたの覚えています。

村: それで編集長ということになったのですかね。

花: いや、そういう感じではなくて…。金沢八景の印刷所に原稿を届けたときに、印刷所の方に「編集責任者の名前が入っていませんがどうします？」と訊かれ、誰にも連絡することも相談することできずあたふたしていると、「あなたの名前がいいのではないですか」と言われて、「じゃあそうしてください」と叱責覚悟で勝手に名前だけの編集責任者になったという次第で…。

村: なるほど。花井さんの自己紹介のときに、あれ？10号は？と実は思ったのですが、そういうくだりがあると、なかなか言い出しにくいですね。因みに、その10号の原稿の編集は？

花: すべて手書きです。

村: 手書きですか。今はPDF入稿で便利になりました。それはさておき、先ほど、お二人の期間に、ページ数が増えていることには触れたのですが、用紙サイズもかわっていますよね？

花: 小さい字だと読まずにゴミ箱に捨てられると聞いたので、従来A5版だったものをB5版に切り替え、ワンサイズアップさせました。カラー化も念頭にはありましたが、予算がネックでできませんでした。当時、同窓会の支出項目では会員名簿(2年に1回紙ベースで発行)とアラムナイが突出してアラムナイにもっとお金をかけたいとは、とても申し出せる状況ではありませんでした。

高: 私の時には、そのサイズアップされたB5サイズを更にA4に拡大したり、一部カラー印刷を取り入れたりしました。A4サイズにしたのは、ページ数を減らしてコストを下げる目論見があつてのことでしたが、同時に少しですが写真を大きく掲載できることになりました。同期会の集合写真など、可能な限り顔が判るように大きめにさせてもらいました。

村: 見やすく・読みやすくを軸にしながら。でもコストもですね。そうした限られた予算で何とか読んでもらえるように、のアラムナイですが、読者からの手ごたえというのはどうでしょうか？

花: 読者の反応はほとんどありませんでした。お世辞でもいいから「いつもご苦労さま」とか「毎号、楽しみにしています」とか言ってもらえたら励みになったと思いますが、そういう声は聞かれず、モチベーションは自ら保たねばなりません。一緒に作ってくれる人がいないかいつもアンテナを巡らしていましたが、ある日、「花井さんの仕事を手伝いたい」というメールをもらい、早速当人と会って編集の仕事について話をしました。「読んでくれている人がいる」「いつか編集長の仕事をバトンタッチできるかもしれない」と

期待が膨らみました。ほどなく彼から再度の連絡があつて、「家内の了解をとろうとしたら、そんなことをやる時間があるんだったら、家の仕事をしてくださいと言われてしまった。この話、なかったことにしてください」という前言撤回の連絡でした。一瞬にして夢は暗転しましたが、編集の苦勞を考えてくれた人がいたことを知っただけでうれしく、懐かしく思い出されます。

高: 私の方は、〇〇期、この一冊というタイトルで各学年から同窓生に紹介したい著作の紹介をお願いしたところ、数々のご回答をいただき第95号でご紹介することができました。この時ご協力いただいた各期委員の方々のご対応は大変嬉しかったです。

花: 反響というか、お叱りというか…、ある投稿記事の中に「大東亜戦争」という表現があつて、卒業生の一人より、執筆者並びに編集者に向かって「時代錯誤も甚だしい」とか「戦争主義者か」といったお叱りの投書をいただいたことがあります。私は、辞典にある言葉だし、普通名詞だと思って、執筆者に表現の変更求めなかったのですが、その卒業生(教育者)には大変不快だったのでしょうか、後日、釈明をし、お詫びしました。幸いそれ以上の論争に発展しなかったのですが、「先の戦争」も「太平洋戦争」もびったりな言い回しとは思えず、どう表現すればよかつたのか、いまだに正解がわかりません。

村: 言葉の選択って、世代というよりも生きた時代によってとらえ方が変わるので、難しいですね。同窓生には文筆業の方も結構いらっしゃいますし…。

花: 栄光OBで本を出版している方も大勢います。そういう方の一人より、栄光の卒業生の新聞なのだから「よく推敲し、誤字脱字のない、品位のあるものを出版していただきたい」との忠告をいただきました。このことが頭にあり、最終稿を印刷所に渡す前、心の中でよく葛藤することがありました。「もう一回読まなくても本当にいいのか？」と。一抹の不安を抱きながらタイムアップで印刷所に渡すのはいい気分ではありませんでした。

村: 自分は…品位までは気が回っていません。誤字脱字は本当に気を遣います。が、詰めが甘くて…発行後にやはり指摘される…。さて、気を取り直して。今回100号まで号を重ねてこられました。これからのアラムナイにどんなことを期待されますか。

花: 卒業生にとって「俺が行った時はこうだった。今はどうなんだ？」というのが一番楽しい話題だと思います。特に古い期になればなるほどそうでしょう。制帽はあるの？今はどうかばんを使ってるの？中間体操はまだ裸でやってるの？成績表はどういうのが出るの？等々。こういう題材で、今の栄光を、できれば昔との対比で紹介してもらえると読者には面白いのではないのでしょうか。一度でなく、シリーズでやってもらえるとありがたく思います。

高: 全ページのカラー化とデザインの向上で、アラムナイの認知度も上がったと思われます。郵送されてご家庭に届くアラムナイは多くの卒業生にとって、同窓会ホームページの閲覧やFacebookなどのSNSによる連携を行っていない限りは、母校との繋がりを意識できる唯一の手段です。同窓会ホームページの更新やウェブコンテンツの充足も重要な課題ですが、だからといってアラムナイによる発信について手を抜くことはできないと思っています。効率的にウェブコンテンツとアラムナイによる紙媒体の両輪を回し続ける上手い方策をぜひ模索していただけるとありがたく思います。

村: ありがとうございます。次世代にうまくバトンをつないでいければと思います。

OBだより

23.2.22

22期同窓会 卒業49周年(プレ50周年)の集い

同窓会HP
>活動報告・会報記事
>各期活動

まずは、22期の皆さまへのお知らせです。卒業50周年を祝う同期会は、2024年2月23日(金)夕方@ホテルプラム横浜で開催します。ご予約くださるようお願いいたします。

自己紹介であらめて、“！”

2023年2月22日午後5時半を少し過ぎて、ホテルプラム横浜の会場で、「期委員と有志が企画し、来年の50周年の練習として集いました」と司会の一人名執さんが話し始めると参加者から笑いが起こり、愉快に同期会は始まりました。そして、もう一人の司会者石井さんが準備したBGM(70年代のポップス)が軽快に流れる中、テーブルごとの語らいが和やかに始まりました。

しばしの団らん後、参加者全員から約30秒の自己紹介がありました。皆、家族や趣味や仕事の様子などが報告されました。「一緒にゴルフをしている同級生数人がいる」「再雇用されて頑張っているけど、通勤時間が往復4時間で給料も安いのが少々辛い」「高齢者の後遺症が大変である、今回のパンデミックに負けないために気をつけること…に関するアドバイス」「最近の著書の紹介」「出席できなかった22期生の報告」「久しぶりに大学生なり歴史研究をしている」「<死ぬ>と<生きる>について語り合う時期が来たね、という考察」「怪我したけど、フルマラソンに出る。応援を頼む！」「私もフルマラソンに出る準備をしている。応援して」「大学の先生は話が長いね…という感想」「九州の大学から帰ったよ」などのご発言もあり、笑いもあり楽しいひと時でした。

あっという間の2時間半

予定の2時間半はあっという間に過ぎ、お開きに。2次会は三々五々。ホテルのご厚意で、同じ「広い」会場で10人ほどでも2次会開催。その中で、50周年は<先生方も呼ぼう>準備企画としてゴルフコンペを開こう<準備企画として栄光の山小屋(栄光ヒュッテ)で一泊しよう><当日は五十周年記念バンドを結成し、何曲か演奏しよう><毎年同期会をやるよ>」など、前向きな発言があり、期委員と有志で企画していく方向で合意しました。

なお、宮島さんが記録写真撮影を引き受けてくださり、後日、インターネット上で写真が見られるよう手配してくださいました。同期生一同、感謝。宮島さんからのご感想も以下に引用いたします。

「卒業49周年の同窓会」に行きました。かみさんに変な学校と言われました。中・高時代を一緒にすごした40名ほどが参加。びっくりしたのは67才でまだ働いている人が多かったことです(けっこうみな高待遇で)。

- ①優秀な人ほど年を取っても仕事を続ける傾向が強い(経済的な理由は少ない)。本人たち曰く「仕事しないと不安」、「奥さんから家にはいないでほしいと言われている」です。ただし謙遜だと思ふ。
- ②健康のレベル差がとても大きい。体調不良、がんによる静養中などで欠席した人が予想外に多かった。すでに天国に召された人は180名中約10名いて、名前を聞くと中学生の面影が蘇ってきて悲しい。
- ③自分もそうだけど趣味では当時の趣味を続けている人が多い。HO鉄道模型500両の保有者がいて、茅ヶ崎のお屋敷に招待されました(自分は30両。車両持参でおじゃまするぞー)。
- ④参加者の中に先月のマラソンでサブ4(4時間切り)を出した人がいました。同窓生でマラソンする人がいるなんてびっくり。相手もびっくりしていました。「70才でサブ4」、「80才でサブ6」目指そうと意気投合しました。

13年ぶりの同窓会は、昔が一気に蘇り、それが楽しくて、刺激を受け、元気をたくさんもらって帰宅しました。

当日は、江崎さんが、受付を引き受けてくださいました。この場を借りて江崎さんにお礼申し上げます。常任委員については4月から名執さんが引き受けてくださることになりました。この場を借りて、名執さんと今年度で交代する松田さんに感謝申し上げます。

食いしん坊の小生としては、SDGsのうち、#2飢餓をゼロに、が意識されたことをご報告します。参加者から、「今日は豪華だね」という声があったように、皆がたくさん食べながら、語り合いました。そして、ホテルの同じ会場での2次会では、残ったご馳走をしっかりと消費いたしました。

以上、49周年の集いを報告するとともに、来年の50周年(2月23日)に再会し、互いに励まし合えることを祈念いたします。

小池正克(22期)



27期 vs 28期ソフトボール対抗戦

2020年の企画から3年越し！

2020年2月5日、6年ぶりに文化部が幹事となって、毎年恒例の「27期ソフトボール大会」を5月24日(日)に開催することをグループメールで同期に案内しました。そのころはまだ、新型コロナウイルスがとんでもない脅威だとは誰も認識していませんでした。

その後、世の中は大変なことになり、学園は休校、栄光祭も延期となるに及んで、2か月余り経った4月中旬、やむなくその年の「ソフトボール大会」は開催を見送りました。すでにソフトボールどころではなくなっていました。

それから2年半後の2022年夏、久しぶりに行われたこちらも27期のビッグイベント「横浜スタジアムナイター観戦会」では、参加したメンバーから一様に「ソフトボール大会」の開催を熱望する声がありました。『たしか次のソフトボールの幹事は文化部だったよな。伊澤、頼んだぞ！』…。

コロナ禍が落ち着きをみせはじめた今年の1月中旬、意を決して？28期の高田暁先生に「ソフトボール大会」の可否について連絡を差し上げたところ、開催に向けてすぐに動いて下さり、5月21日の日曜日のフィールド使用の許可を頂きました。4年ぶりの開催です。高田先生のお声掛けで28期の皆さんの参加も決まりました。高田先生には、毎度のことながら、フィールド使用申請以外にも、用具や体育館施設の準備などでお骨折り頂きました。

懇親会では、次何する？で盛り上がっています

当日の様子は高橋英治さんの別稿に詳しくありますが、幹事としては、4年の間に全員が還暦を迎えた参加者に大きなアクシデントもなくイベントが無事終了したことに何より安堵した次第です。



27期。夜の部も元気です ▲

27期は夜の懇親会に4名が合流し総勢29名、久しぶりに再会する同期との話も弾むうちに、2年連続となる夏の「横浜スタジアムナイター観戦会」、また、来春予定の「卒業45周年同窓会」に向けてさらに意気は上がり、仲間と過ごす幸せな夜は更けていったのでした。

伊澤尚記(27期)

栄光のフィールドで、4チームが2試合ずつ！

今年も27期の皆さんからお誘いいただき去る5月21日に栄光学園フィールドでソフトボールの対抗戦を行いました。コロナ禍の影響で久しぶりの開催となり、28期は2018年の敗北からの雪辱を晴らしたいところではありましたが、参加者は11名。それに比べて27期は25名参加と、学年対抗のチーム分けができず、今年は2学年混成の4チームに分けて各チーム2試合ずつ。ただし1試合は5回までです。最後に2学年の野球部OBチーム対挑戦者チームの試合と、残りのメンバーで27期対28期中心チームで試合を行いました。

迫先生にもご参加いただき、準備運動から指導してもらいました。それにしても27期の皆さんは大相撲観戦やらプロ野球観戦やら集まりが良くて団結力の高いこと。28期も見習わないと。かくいう私は昨年痛めた膝が完治しておらず見学という体たらくでしたが。

打者有利！おじいちゃん頑張れえの声援

当日は天候にも恵まれ、皆さん筋肉痛と日焼けのダブルパンチで翌日は辛かったのではないのでしょうか。試合は内野手の球が1塁まで届かなかったりする守備で、バッター有利な展開でしたので、ラグビーの試合のような得点になりました。点の取り合いで、どちらが勝ってもおかしくないような感じでした。点の取り合いということは、ランナーとしてたくさん走らなければならないのと、たくさん打席に立つので、還暦を過ぎた肉体にはキツかったようです。

観戦にいらしたお孫さんからの「おじいちゃん頑張れえ！」の声援を受ける方あり、当日早朝野球の審判を務めてユニフォーム姿で登場する方あり。バンバン走って前のランナーに追いつきそうな運動能力を維持している方も、ヒットを打って打席から走り始めた途端に足をもつれさせて1塁に転がり込んだ方も、皆さん素敵な笑顔でした。数年ぶりのイベントで運動不足の人も多かったのかと思いますが、皆さん還暦を過ぎても大きな怪我もなく？とり行えたことは何よりでした。(足を引き摺っておられたS先輩、大丈夫でしたか？)

27期の皆さん、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひします。28期のみんなはもっと参加しましょう。

高橋英治(28期)



ここまで飛ばしてこーい ▲



27期と28期とそのご家族 ▲

結成！大船殿の13人

世の中の順番通りに29期も2022年度に還暦を迎え、まさに「同窓会ブーム」の年代となりました。

この発端は、2022年11月末、29期軟庭部(ここではあえてソフトテニスではなく「ナンテイブ」)の3人 石田、河北、高橋の3名が再会したのを機に、皆で一回集まりたいと盛り上がり、LINEグループを作成。河北氏の呼びかけであつという間に13名がグループに参加。SNSが苦手な人は無理せず、ひとまず「大船殿の十三名」が結成されました。

会の日程は参加可能の最大公約数、3月11日(土)に決定。同期の軟庭部員が副校長というメリットを最大限に活かして、「15時大船駅南改札集合。栄光まで歩いて新校舎を見学。その後大船駅に戻って宴会」という企画となりました。

「大船駅南改札？改札1つじゃないの？しかも何十年も会ってないのに見つけられる？」と若干の不安な気持ちを抱えつつ、約束の少し前に着くと、すでに懐かしい顔が揃いぶみ。互いに照れくささを隠しながら、再会を喜びあつた清水、高橋、成田、伴、石井(伸)の5名は、玉縄人・石井誠氏に先導され柏尾川にかかる歩道橋へ。整備された護岸。「もう、川溢れそう、早く帰れるはないんだね。」歩道橋の上から見る観音様、すごく距離が近い。新しいバスターミナルも辺りの風景を一変させている。「昔はここ何だった？ここは〇〇があつたよね」と当時の記憶を辿りながら、栄光坂へ。部活帰りの栄光生と縦一列ですれ違い。「なんか歩道狭くなった？制服変わっていないね。いま何期だろう？もうこの急坂は上がれないのではないかと思っていたけれど、みな意外に健脚。見慣れた校門前のスロープに着くと柳下副校長がお出迎え。

まずは聖堂にご挨拶。その後、中庭、教室。行く先々で副校長に質問攻め。渡り廊下から中央の階段を降りグラウンドへ。この階段はグラウンドからの風の通り道。前日に期末テストを終えたばかりの校内に生徒の影はなく、静かな栄光学園。ゆっくりと流れる時間。校舎正面の植え込みの木、少し高くなっていました。

懐かしのテニスコートは健在！

右手の坂を下ると懐かしのテニスコート。陽の傾いた土曜のテニスコートは、まさにあの時の風景。心地よい風に誘われ、自然とラケットとボールを手にネットの向こうとこちらへ。かろうじてラケットには当たっても、ボールはネット超えるのがやつと。意図せずコートの隅にナイスショットとなり、全く乱打は続かず。「次回は試合しよう」との現ソフトテニス部顧問の厳しい提案に皆苦笑い。でも、ラケットにボールが当たる感触、音はとても心地よく、「白球ボンと打ちにけり」(伴喜生)。コートを出ると思い出すのは苦しかったランニング、



日も傾きかけたテニスコート ▲

筋トレ。「大廻りコース」をたどって、奥のテニスコート、グリーンボードへ。ここも思い出いっぱい。クレイコートのライン引き。倉庫の炭カル(石灰)と塩カルを間違えて溶かして、「なんか熱くなつたぞ」「全然、線ひけないぞ」はしゃぐ僕たち。そこに「お前ら何してんだ！危ないだろう！」先輩の喝。(解説:良い子の皆さん、真似しないでね。塩酸カルシウムは水に溶くと溶解熱を発生危険です。冬の北海道では融雪剤として高速道路に撒かれます。)

講堂の中も少し見学。薄緑の椅子、「だいぶ古くなったね」。すかさず「寄付をお願いします」と副校長から(汗)。講堂前の階段。咲き終わった梅の木の横から見下ろす風景は42年前とはちょっと違ったけど、卒業式のあの日に並んだ皆の制服姿は今でも鮮明な記憶。「そういえば、バスケットリングがなくなってるね。」

ダラダラとしゃべり下る栄光坂も懐かし～

校門前で笑顔の守衛さんに集合写真をお願いし、坂をダラダラ降りて駅まで。軟庭部29期、部活後はいつも校門で集まってからダラダラ駅まで一緒に帰っていました。駅東口階段を降りた繁華街。ここは栄光とは別世界の雑然とした忙しい時の流れ。満員の中華料理店で乾杯。仕事を終え駆けつけた大森キャプテン、河北、宮崎の3名も加わり10名無事全員集合。キツキツに詰めて着席。互いの近況を伝え合うも、話はすぐに昔の思い出へ。ここでしか言えない昔の悪戯、失敗談、先輩や先生に叱られたこと、全部笑い話。個々の記憶をつなげると話が全て繋がり当時の本が書けそう。職場に戻ればお偉いさん方ばかりなのに、中学の時につけられたあだ名そのまま呼び合い、やっぱり栄光の友が一番いいかと再確認。自然と2次会に流れ、そこでは今回参加できなかったメンバー「彼らがないのはやっぱ寂しい」と早くも次回の日程調整開始。軟庭部に途中から入って来てくれた人、途中で他の部に移った人、僕みたいに途中サボってばかりだった人、全てを仲間として包容してくれるのが29期軟庭部の仲間たち。次は「大船殿の一六名」として集結しましょう。気づけば、終電の時間。

ちなみに、私は札幌在住。「このためだけに来たの？」「うんそうだよ。勿論また次も来るよ。」皆を見送り、路地裏のビジネスホテルへ。翌日昼の便でまだ雪残る北海道に戻りました。

石井伸明(29期)



とりあえず、校門のそばにて ▲



大船駅東口の中華料理店にて ▲

10年ぶりの顔合わせ

60期は成人式にあわせて(ひどいどんちゃん騒ぎの)同期会を大船のホテルメツツ一階にあった喫茶店でやって以来、(小規模な集まりはあちこちであったものの、)期単位のまとまった同期会はそれから10年近くずっと出来ておりませんでした。この度、新型コロナウイルスのパンデミックもいちおう一段落ついたと思われたことなどから、6月上旬に同期会を開催する旨をアナウンスいたしましたところ、「30歳の節目にあわせて同期会をもう一度やろうじゃないか」という機運がひそかに高まっていたのでしょうか、おかげさまで多くの反響を頂きました。最終的に60期は98名、お世話になった先生方のうち4名にもお越しいただき、大同窓会と題した名に違わぬ規模の開催をみる事ができました。

変わるもの、変わらぬもの

前回の同期会では会場選びにも参加者予測にも失敗した苦い経験を踏まえ、今回は品川のステーキ店にてバイキング形式の食事としました。参加者の皆様方にも事前入金のご協力をいただいたこともあり、今回は特に混乱もなく円滑に開催することができました。その一方、長らく開催されてこなかった同期会ということで、久々の再会を喜び会話が弾む様子があちらこちらで見られ、ビンゴゲーム、先生方のスピーチ、ご予約合わず参加頂けなかった先生方から頂いたビデオレターなど、学園祭公演部門経験者が用意した数々の企画もおかげさまで好評を賜り、大いに盛り上がるものとする事ができました。

一次会のあと引き続き二次会が、近隣のダーツバーにて開催され、「30歳の主張」と題して栄光時代に言えなかったことを発表する企画のほか、「中間体操」も行い、栄光時代を懐かしみ旧交を温めるとともに思い思いの時間を過ごしました。さらにその解散後も名残

惜しさからか朝まで麻雀を楽しむグループもあったらしく、学生時代と変わらぬ同期間の強い絆が実感される一日となりました。

卒業後10年以上が経過し、同期の中には風貌一変した者、社会の中で大いに活躍する者も増えており、時の流れを感じずにはいられませんでした。同期会の間はみな学生時代に戻ったかのようでした。今後なかなか同期で集まるといことは難しくなっていくだろうとは思われますが、10年後元気で無事に、今回参加叶わなかった面々も交えて同期会を開催できることを願ってやみません。

末筆ながら、今回の同期会開催に際し、共に企画調整に奔走した期委員3名(小林幹治、印南隼毅、伊藤光平)、先生方の出席調整など様々なご協力を頂いた「はやしま」先生、当日ご参加いただいた大西先生・柳下先生・飯野先生(特に飯野先生には在学当時撮影の写真もご提供頂きました)はじめ、ご協力を頂いた栄光の先生方・同期のみなさま、そして過去から現在まで栄光学園という最高の環境を守り続けてくださっている諸先輩方、先生の皆様、現役生の後輩方に厚く感謝御礼申し上げます。ありがとうございました！またお会いしましょう！

内山和輝(60期)



いい30歳達の弾けるエネルギー ▲

「マン島とマン語」



マン島はイングランドとアイルランドの中間に浮かぶ島で、長さ50km、幅20kmのサツマイモの形をしている。英領であるが、通貨や切手は独自のものが使われており、紙幣とコインも英国とは異なっている。マン島はオートバイレースが行われており、一時「ホンダ」が優勝を続けたため、日本でも知られるようになった。

島には固有の動物として、尾の無いマン島猫(Manxcat)と4本の長い角を持つ羊(Four horned longhorn Sheep)がいる。羊の角は太く大きいので、頭がかなり重そうである。港では船が幾隻も、干上がった泥の上で傾いていた。干満の差が5mもあるので、港に入る船は注意しなければならない。島はなだらかな田園地帯とともに麦畑が続き、羊が放牧されている。島の最高点は620mのスナフェル(Snaefell)である。

南のキャッスルタウンには城があった。小さい城だが、屋根の上や城壁の上を歩けるようになっていた。海沿いにフットパスが続いており、海を眺めながら散歩が楽しめる。マン島博物館で、マン島の歴史(Story of Man)を見て館内にある遺跡や、マン語の会話を映像とテープで体験した。島の農業や漁業、魚の燻製工程、燃料にする泥炭(turf)の掘削法、伝統的な農家の暮らしなどを展示していた。港町のピールの民俗博物館では、ケルトやバイキングの暮らしをジオラマで解説していた。

南端のポートエリンは海辺に瀟洒(しょうしゃ)な家々が並んでいる。砂浜が続くホテルが幾つかあり、夏のリゾート地といった趣きがある。左手の岬には海洋生物センターがあり、帆立貝の養殖について研究をしていた。

マン島はマン語の地名が多く、ラムジー(Ramsey)は野生のニンニクのある川(wild garlic river)の意であり、ラグジー(Laxey)は鮭のいる川(salmon river)の意である。

島の中央に円形の土を盛り上げた壇がある。9世紀にケルトの議会在開かれた場所であり、セントジョンズタウン(St John's Town)と呼ばれている。Townの原義は柵で囲まれた処である。今日でも年に一度、古代の会議を模した式典が行われている。マン語はケルト語の一種であり、13~15世紀にアイルランド語やスコットランド語より分かれたが、19世紀より衰退して行った。

1874年には人口5万4千人中30%の16,200人、1901年には人口5万5千人中8.1%の4,400人がマン語を話していたが、1951年には0.5%の278人に減少してしまった。マン語の最後の話者Ned Maddrellは1974年に没した。その後、民族意識の高揚とともにマン語再生運動が生じ、マン語協会が創立されてマン語研究者による再興運動が始められた。マン語話者は2015年には人口8万8千人中2%の1,800人まで増加している。

現在マン語に因む名前が好まれており、Mairrey(英 Mary)、Iliiam(英 William)、Breeshey(英 Bridget)、Eam(英 Jhon)、Pherick(英 Patrik)などの名前が用いられている。マン島のケルト名はMannin(マニン)またはVannin(ヴァニン)であり、マン語はgailek vanninagh(マン人のゲール語の意味)またはghengey ny mayrey(母の言葉の意味)と呼ばれている。英語ではManx gaelicまたはManxがマン語およびマン人を表わす言葉であり、マン島はthe Isle of Manと呼ばれている。

池添博彦(8期)

栄光ヒュッテ利用手引きを整備

2023年4月に山岳部OBと栄光学園との協議を経て、栄光ヒュッテの同窓生向けの手引きが作成されました。

丹沢・札掛にある栄光山小屋。同窓生の皆さんは、学園の利用日と重ならない限り、家族・友人と共にご利用頂けます。手引きに従って「ヒュッテ・ライフ」をお楽しみ下さい。手引きは同窓会HPからダウンロード出来ます。

[利用方法の概要]

1. 学園の山小屋担当者にメールまたは電話し、希望日を調整して下さい。(現・担当者は、柳下副校長=yagishita.gi4@eiko.ed.jp)
2. 学園がお送りする「利用申込書」に必要事項を記入して返信して下さい。
3. 利用当日、丹沢ホームで小屋の鍵を受け取り、利用後に鍵を返却して下さい。
4. 下山後に利用料金を指定口座に振り込んで下さい。
(1人1泊1200円・未就学児は無料)

この山小屋は、開校10周年記念事業として1957年に建てられました。建設に尽力された故ハンス・シュトルテ神父(通称・天狗さん)や、作業に当たった教職員、生徒(6期～9期)に思いを致し、末永く大切に使用して頂けたら幸いです。



栄光ヒュッテ ▲

山岳部OB会 春の栄光ヒュッテ行

春の山岳部OB会が4月22日(土)に丹沢・札掛の栄光ヒュッテで開かれました。昨春のヒュッテ訪問以来、山小屋の利用方法について学園と議論を重ねてきたなか、改めて小屋を見てみようという趣旨で、11人が参加しました。うち86歳を超える3期生が3人、最後の山岳部員の24期も65歳を超えるだけに、8人がマイクロバスで、3人が歩いて札掛に入りました。

早々に小屋を見て回ります。雨戸のペンキが剥がれかけていましたが、概ねしっかりしています。生徒が寝起きしていた広間も皆が集う土間も、昔とほとんど変わっていませんでした。裏手の炊事場ではボンベの栓を開け、ガスコンロが使えることを確認しました。汲取式だったトイレはパイオトイレに進化していました。

当日は、どんよりとした曇り空、小屋も底冷えがしていました。窓を開けても室内は薄暗く、ランプを点灯。枯葉と枯れ枝を集め軒下の薪を10本ほど拝借して、ストーブに火を入れました。何十年ぶりのランプや薪ストーブでしたが、若い頃に覚えた技は錆びついておらず手際よく準備が整いました。ランプの灯りの下、ストーブを囲んでいると「昔に戻ったようだ」との声が出ました。

会はいつものように、岩崎孝之会長(10期)の挨拶に続き、「山の男の十の掟」と山岳部歌を斉唱の後、自己紹介。3期の星野芳久さんは、山岳部長で今は亡きハンス・シュトルテ神父(天狗さん)からヒュッテの設計を頼まれ、八ヶ岳にある上智大学の山小屋をモデルに図面を描いたが、煙突がないと天狗さんに却下されたというエピソードを紹介するなど、それぞれが山小屋の思いを語りました。

そして、メインテーマの学園から示された「栄光山小屋の利用手引」について検討。手引きの柱は、学園の利用予定がない日に限



ヒュッテで暖をとる ▲

り、卒業生は学園の許可を得て利用でき、小屋の炊事道具、ランプ、ストーブなども使えて、下の広場ではキャンプ利用も可能などの内容。議論は、ストーブの燃えかすの処理方法の確認やパイオトイレの使い方、ペット同伴の是非など幅広く、さらに、窓の塗装の剥離や老朽化したストーブの更新など小屋の維持にも話が及びました。

弁当で昼食を取った後は、星野さんが持参した大小二つの天狗の面を星野さんと幹事の田中泉さん(11期)が被って、天狗さんのおはこだったテング踊りを披露。午後2時前に、小屋に泊まるひとりを除いて、新緑に囲まれた小屋を後にしました。

中川聡(24期)

栄光の山小屋を訪問してみました！

2023年5月21日の週末、卒業した中高の山小屋に同期(67-68歳)で集まる機会がありました。オッサンたちですね。

この山小屋は栄光学園の10周年記念事業として、当時の教員と生徒たちが大工の協力も得て1957年に丹沢札掛に建てたものです。もう築66年、僕らと似た年齢です。1957年7月の山岳部誌「いろり」山小屋特集によると正式名称は栄光山小屋。

最近まで現役学生が夏に合宿などをしていましたが利用は漸減。最近では日帰りハイキングくらいになったとかで、なんとかOB達が利用して施設の維持に協力しようと企画しました。

同窓会で声掛けして参加したのは5名。飲んで食べて楽しい夜でした。小池さんはギターを持参して、弾き語りしてくれました。

栄光OBの皆様、是非利用しましょう。友人、家族との利用も可です。OB以外の皆様、近くに栄光卒がいたら連れて行ってもらって下さい。今なら一棟貸切(40-50名滞在可)でも一人1200円。二人利用で2400円、なんと贅沢な空間でしょう。

難を言えば、春から夏は最近、山ビルがたくさん発生することでしょうか？今回も参加5名のうち4名が遭遇、3名が出血しました。痛くないけど、メンタルを少しやられます。まあ丹沢には蛭ヶ岳なんて山もありますから、昔から多いのかもしれないけど。

三谷勇雄(22期)



ヒュッテを探検中 ▲



4月からオンエアされている、老松酒造のシン・ENMA（ベースブランドは閻魔）という焼酎のCMにメインで登場しています。

退職後に落語を生業としてますが、なんでCMに出ちゃったのということも含めて、CM撮影の体験を記します。

そもそも、知り合いが、「そんなに落語やって、演劇も心得あるなら登録料無料のシニアタレント中心の芸能事務所があるから紹介しようか」と言われ、「タダならいっか」というノリで昨年暮れに登録したんです。

よくある「あなたもタレントに」なんていう芸能事務所の中には、結構な登録料や月々のレッスン料を取るところも多く、その割に実際の仕事は来ないなんていうケースがあるのですが、この事務所はそういったお金が本当にかかりません。仕事がなければ出費もないので気楽なシステムです。

登録後は案件がメールで来て、そのうち日程や条件に合うものにエントリーすると、まず書類選考がありまして、それを通るとオーディションを受けます。

制作会社のスタンスにもよりますが、毎回、一つの役にあちこちのタレント事務所から30人くらいは呼ばれているようです。今回の役は私の三つ目のオーディションでした。福岡での撮影ということだったので、「タダで福岡まで行ける！」というのとギャラが素人タレント案件としては結構良かったのが申し込みの大きな動機でした。

で、何日かしましたら、事務所から「合格しましたので、福岡に行ってください」とのことで、「へー」という感じでした。

撮影前日に羽田で奥様役のSさんと初めてお会いして、福岡へ。福岡で制作会社のプロデューサーの迎えを受けて、ホテル入り。

翌朝は、ホテルに他のスタッフも集合して、ミニバンで福岡近郊の住宅街の一軒家に。ここがハウススタジオというやつで、こうした撮影などに貸している空き家です。

私たちが到着した時には、すでに他の20名ほどのスタッフさんは準備中で、昼なのに夜に見えるよう窓を全て覆って、照明のチェックやらなんやらをしていました。これが実に細かくて、「そのレフ(反射板)をもう2°上に上げてくれる」「遮光板も3cm下に下げて。あ、行き過ぎ1cm上げて」なんてことをやってます。家具や小物の配置も、センチメートル単位で微調整しています。

その間に、役者二人は衣装合わせ、メイクをして、私の場合は、今回髷なしでという条件だったので、髷を剃ってもらって、待機します。

今回、犬も登場していますが、これもタレント犬で特別に訓練された役者犬です。躰がちやんとされていて、聞き分けがとても良いのです。そしてこの焼酎のラベルに載っている犬にそっくりということで選ばれたそうです。もちろん飼い主が同行していて、疲れない

ように、飽きないようにいろいろ世話をします。

いろいろな機材があるのですが、どれもこれも接地面に硬式テニスボールを割いたものが嵌めてあるんです。スタッフの方に「これどうしてですか」とお聞きしたら「床を痛めないようにです。東京のどこかの制作会社が始めて、あつという間に全国に広がった工夫なんです。これはヒットです」と言っていました。もちろん、床は養生してるのですが、その上で更にこれだけ気を遣っているんだと思いました。

昼食後、スポンサーの社長や広告代理店の営業と思しき背広組が到着して、一通り挨拶が終わると、いよいよ撮影です。衣装の襟、髪の毛の乱れ、グラスの氷の量、氷でグラスが曇っていないかどうかなどなど、とにかく細かいです。その度に、スタイリストさん、メイクさん、氷係の人(二人張り付いています)などがパキパキ動きます。で、まずはカメラを回してから「5、4、(3)、(2)、(1)」(括弧内は無言で指だけ)とキューが出て、セリフを言います。何度も言います。これはダメだしというよりも、いろいろなパターンを撮ってどれがいいかを後で編集の時に考えるようです。ですから「グラスを見て笑って少し間を置いて『これもね』を言ってください」とか「グラスを見て笑いながら『これもね』と言ってください」という感じです。

オーディションの時に「遊助さんは落語家なので大きな声ですが、普通に、むしろ囁くくらいで言ってみてください」と言われましたので、本番も家庭で会話する程度の声で演じました。それで十分なようです。

あのグラスの中は、焼酎ではありません。何かのお茶を薄めたものです。ま、本番でも口につけるくらいでほとんど飲みませんでした。

やがて、撮影終了「撮れ高OK」というやつです。その声が聞こえると流石に皆さんもホッとした空気が漂います。すぐにそれぞれ片付けを始めて、役者も着替え、メイク落としをします。

帰りの予約は撮影が延びた時を考慮して最終便だったので、17時頃には終わったので、18時台の飛行機に変更して家には22時過ぎに到着しました。

慌ただし一日でしたが、65歳でこんな新鮮な体験ができるというのもありがたいことだと思います。

オンエア後は「もしかしてCM出てない?」とか「そっくりな人が出ているけど…」という連絡をたくさん頂きました。

CMに出た効果を3つ。①長く連絡をとっていなかったような人から、「CM出てる?」なんて連絡をいただいて、交流が復活する。②皆さんにちょっとした驚きや喜びと、ご家族やお仲間との話題を提供して少しは世の中のお役に立っている。③落語会などで「この頃はCMにも出ている参遊亭遊助さんです」と紹介して頂くと、落語まで上手そうに思われるらしく、受けがいい。

7月に二社目のCMを収録しまして、それは9月頃からオンエアされていると思います。

皆さんも試しにやってみませんか(既に知人が三人、同じ事務所に登録しましたー別に私には一銭も入りませんよ(笑))。

Mail: mameuda@gmail.com
HP: <http://yusuke0816.jimdo.com/>
Line: mameuda-s
YouTube: 「参遊亭遊助」で検索
Facebook: www.facebook.com/shinichi.mameuda/

参遊亭遊助こと豆生田信一(24期)

学園だより

71期生が卒業・同窓生に！ 栄光の6年間を漢字一字であらわすと…

- 一:小中高出席番号1番、宿命、、
無:無知の知
変:自分自身とても変化のある6年間だったから
楽:6年間を通して毎日が楽しかったから
未:未熟をもって、未来と為すため
幸:幸せな6年間だったから。皆に幸あれ！
導:学友や先生方、そして栄光学園に導かれた6年間だった
幸:名前の中で唯一間違われなかったし、6年間幸せだった
浅:なし
礎:この六年が今後する事全ての土台となる確信で選んだ
素:各々の個性を出せる素晴らしい学校生活でした
惟:特に意味もないことを考えることが多くなった
友:6年間友人に恵まれて学園生活を終えられたから
流:流れるように過ぎていった6年間だった
環:素晴らしい環境で学び、友人の環も広がったため
梅:嗜めば嗜むほどうまい
会:6年間で沢山の仲間や目指したい夢に出会えたから
賭:ギャンブラーの精神
最:最強?な知人のいる最高の場所で最低な生活をしたから
力:6年間全力で走ったことは必ず力になっているから
空:なんか空が近いぞ！と感じる日々でした
共:共同での活動や共通の趣味を通して共感し合えたから
短:楽しくて一瞬でした
知:学ぶ楽しさや自分の非力さなどを知ったから
固:自分についての認識や将来の目標が固まったから
太:太い6年間でした
忠:やりたいこと、行きたい所にとことん忠実に生きた
雨:私の栄光も平穏も苦難も何もかも、全てを齎してくれた
吹:部活でいつも楽器を吹いていたので
登:6年間通してほぼ休まず、毎日栄光坂を登ったから
朱:いつも赤点ギリギリだった
天:てんやのレシートがデカすぎる為
劇:なんでもありの即興劇。上演時間6年の大作
男:男子校だったから
如:中1の時から「おにょ」というあだ名で呼ばれたから
尖:6年間で考え方が変わっちゃった
私:人生の主人公は紛れもなく私自身である
直:一度決めたことは曲げず、真っ直ぐ行動してきたから
進:いい時も悪い時も自分らしく進んでくれた
恵:先輩や仲間から恵まれて毎日楽しく生活できたから
亀:のんびり過ごしてきたので
逢:最高の仲間に出会い、最高の6年間になったから
吹:前半吹け、後半吹けなかった。先輩は吹けますように
珍:珍しい友達と沢山出逢えたから
坂:努力感謝笑顔を大切に、誰よりも濃い6年を送った
光:光陰矢の如し。6年間輝けた、かな
棒:たくて長い充実した6年間だった！！
薄:薄氷を履むが如く、常にギリギリで耐えていた
- 厚:先輩、友人から良い厚かましさ、人懐こさを教わった
成:成長できた一年だったから
赤:俺はパーを出したぞ
由:自由に自分のステップで
納:激しく変わった6年だったから
楽:6年間本当に楽しかったから
絆:絆
蛙:大海を知り、初心にかえる
田:単なる記号に見える漢字 第10位
雀:どの先生にも止められなかった。最高の教師陣
葦:考える葦になりたい
友:一生の友に出会えたから
髭:大学行ったら流石に剃ります
神:加藤純一最強！加藤純一最強！加藤純一最強！
卓:卓越した仲間と、卓を並べ学び、卓球もした6年間
心:自分の内面と向き合うことが多かったと感じるから
縁:一生ものの友達に沢山巡り会えた最高の学校だったから
蛙:井の中の蛙大海を知らず。されど、空の青さを知る
舟:数々の出来事に振り回されながらも乗り越えてきたから
自:周りをあてにすることをやめ、自主的に行動した
楽:6年間楽しかったから
驚:周りは秀才、奇人だらけで驚きの連続だった
大:身体的、精神的に成長して見える世界が変わったから
楽:楽な道ばかり選び続けた6年間でした
轟:タクさんいる中の恩シーです
繋:出会った人たちと大きな繋がりを作ることができたから
濃:毎日が濃い学園生活だった
楽:めちゃくちゃ楽しかった！
祈:巨視的に見れば“諦”にならず前向きに過ごせました
青:栄光での6年間は自分の青春そのものだったから
伸:栄光学園に入ると身長が30cm伸びます
上:ずっと上を見ました
眠:ほぼ毎日眠気を感じていたため
縁:一生大切にしたいと思う友情を育めました！
吹:数々のものをどくどく吹く風でやり過ごしたこと、吹奏楽
会:留学や71期への編入など、多くの新し人と出会ったから
遇:沢山の人に出会い成長した6年でした
兔:気づいたら紅茶が冷めていたみたいな鳥兔匆匆
会:個性豊かな先生や友人に出会うことができたから
楽:友人に恵まれ楽しい学生生活だったから
伊:機会や友達だけでなく様々なものに恵まれました
己:6年間で、自分というものを確立できたと思ったから
思:たくさんの思い出ができた6年間でした
楽:振り返ってくらするほど、充実した学園生活
札:周りの人への感謝
速:あつという間に過ぎて行ったから
部:ソフテもタイズも、最高の仲間たちと全力で楽しめた
縁:たつくさんのご縁に恵まれました！楽しかった！感謝！
愛:沢山の愛を受け取って沢山愛せるようになったから
- 人:人として成長できた気がするから
克:尽力して何かを成し遂げることの意味を学んだから
楽:6年間楽しかったから
腹:通学中よく腹痛に襲われた
学:いろんなことを学んだから
楽:本当に楽しかったし、何事も楽しむ姿勢が身に付いた
成:成長し、なにかに成れたから
个:一文字で表すのは難しいが、タタタな感じだった
人:たくさんの人と出会い、自分も人として成長できた
庭:栄光は俺の庭なので。それと、硬式庭球部への感謝
早:あつという間の6年間だった
笑:面白い友達に恵まれ、笑いの絶えない6年間だった
楽:楽しかった
鶏:「鶏口となるも牛後になるな」を実践したから
坂:栄光坂登ってたら人生登ってました
成:少しは成長しただろうし気付いたら大人に成ってたから
早:あつという間に6年が過ぎたから
妄:神こそ至高
創:様々な創作を行ってきた6年間だったから
遊:ずっとゲームで遊んでました
積:人生は積み重ねであると感じた
楽:音楽を楽しみました
成:達成と成長の6年だったと思うから
安:提出期限に遅れ掲載されるか不安の安
人:人に出会い、学び、支えられ、人として成長したから
幻:全ては泡沫の夢
楽:楽な6年ではなかったけどめちゃくちゃ楽しかった
長:6年はやっぱり長い
栄:栄光生らしい充実した6年間を送ることが出来たから
駆:疾駆セストモ先駆セリ
読:おそらく人生で最も本を読んだ時期になる
友:様々な素晴らしい友達と出会えたから
人:結局人と人の繋がりが一番大事だと気づいたから
彩:多彩な才能を持った仲間たちと過ごした6年でした
照:6年間たくさん笑い、仲間や自分自身を照らしたから
蟬:本名より同期からの認知度が高いので寧ろこちらが本名
瞬:一瞬のように過ぎ去った6年間を思いながら選びました
神:マジで栄光最高
押:早押しクイズと手押し相撲に明け暮れた日々
笑:とにかく笑いまくった6年間だったから
愛:と書いて栄光学園と読む
逢:沢山の人に出会い、人生が豊かになったから
感:友人から感謝や感動を多く得た6年間だった
英:英語に苦しめられた6年間だったから
猛:やりたい事、やるべき事に全力で猛進できた
成:人として成長できた気がするから
迷:この6年間、何をするのに迷いがあった

進路情報 進路指導室から

2023年度入試では、大学入学共通テストにおいて、難化した昨年度から難易度を例年並みに戻した科目もありましたが、平均点の差が大きく得点調整が必要になった科目がありました。少し困惑した生徒もいましたが、多くの生徒が当初の志望通りの大学に出

願し受験に臨みました。今年もコロナの影響でさまざまな不自由がありながらも、生徒たちは最後まで粘り強く頑張っていました。進路進学委員会としては、引き続き、生徒の志望状況や入試動向を注視しつつ、丁寧な進路指導に努めていきたいと考えています。

国公立大学	2023		2022		2021		2020		2019		2018		2017		2016		
	総数 (※)	現役71期 (※)	総数	現役70期	総数	現役69期	総数	現役68期	総数	現役67期	総数	現役66期	総数	現役65期	総数	現役64期	
東京大学	文科一類	5 (5)	4 (4)	10	9	7	5	6	6	11	10	16	13	10	7	11	8
	文科二類	7 (7)	5 (5)	7	3	8	7	7	7	6	3	14	12	10	6	11	8
	文科三類	3 (3)	1 (1)	6	2	7	5	5	2	6	4	6	2	6	1	7	5
	理科一類	23 (23)	20 (20)	21	13	18	12	29	17	22	13	30	21	25	17	19	15
	理科二類	7 (7)	7 (7)	10	4	6	4	7	5	8	3	9	1	7	4	6	8
	理科三類	1 (1)	1 (1)	3	3	0	0	2	1	0	0	2	1	4	3	3	3
	推薦	0 (0)	0 (0)	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	合計	46 (46)	38 (38)	58	35	47	34	57	39	54	34	77	60	62	38	57	41
一橋大学	9 (7)	5 (2)	8	8	9	4	10	9	11	8	10	7	6	3	12	5	
東京工業大学	14 (13)	10 (10)	14	9	4	2	5	4	14	6	6	4	2	1	9	5	
北海道大学	2 (2)	0 (0)	11	5	4	3	5	4	7	4	7	1	5	2	5	1	
東北大学	1 (1)	0 (0)	1	1	5	1	4	2	3	2	3	2	4	0	2	0	
京都大学	6 (6)	3 (3)	9	5	4	2	6	5	7	5	3	1	6	1	10	8	
大阪大学	0 (0)	0 (0)	0	0	2	1	0	0	0	0	2	1	0	0	3	1	
東京医科歯科大学	1 (1)	1 (1)	0	0	2	2	1	1	5	5	4	3	3	3	1	1	
横浜国立大学	6 (1)	5 (0)	5	3	10	4	12	7	13	11	7	6	13	8	9	3	
横浜市立大学	5 (5)	4 (4)	10	6	4	3	5	4	4	3	8	5	6	5	6	5	
その他(医歯系)	11 (10)	6 (6)	8	1	14	7	13	7	10	5	13	8	13	7	14	5	
その他(上記以外)	13 (8)	6 (5)	17	9	16	8	10	3	11	7	9	1	11	5	16	3	

私立大学	2023		2022	2021	2020	2019	2018	2017	2016	
	総数 (※)	現役71期 (※)	総数	総数	総数	総数	総数	総数	総数	
慶應義塾大学	文	2 (2)	1 (1)	2	3	2	1	2	1	1
	経済	14 (5)	9 (4)	19	21	21	29	31	19	21
	法	4 (1)	3 (1)	3	5	3	4	2	2	2
	商	7 (1)	5 (0)	17	10	9	7	13	8	14
	理工	43 (9)	36 (7)	37	24	40	37	32	35	29
	総合政策	2 (2)	1 (1)	6	1	3	1	2	3	2
	環境情報	1 (1)	1 (1)	7	2	1	0	4	2	0
	薬	2 (0)	1 (0)	3	2	1	4	3	2	4
	医	2 (1)	1 (1)	3	1	5	3	4	7	4
	学部不明	0 (0)	0 (0)	0	0	0	0	0	0	0
	合計	77 (22)	56 (15)	97	69	85	86	93	79	77
早稲田大学	政治経済	17 (1)	12 (0)	19	20	9	14	21	18	23
	法	12 (1)	8 (1)	14	9	6	7	15	9	10
	文	1 (0)	0 (0)	1	4	4	7	1	6	3
	文化構想	0 (0)	0 (0)	2	3	5	2	3	0	4
	教育	6 (1)	2 (0)	7	3	2	2	2	2	4
	商	2 (1)	2 (1)	7	6	3	4	10	7	8
	国際教養	3 (2)	3 (2)	1	0	1	2	1	2	8
	基幹理工	17 (3)	12 (3)	15	18	14	9	9	8	7
	創造理工	12 (3)	9 (3)	9	3	9	15	14	11	6
	先進理工	13 (3)	11 (2)	12	7	17	19	12	17	11
	社会科学	6 (0)	2 (0)	6	3	1	6	10	3	8
その他	4 (1)	2 (1)	7	5	3	4	3	2	3	
合計	93 (16)	63 (13)	100	81	74	91	101	85	95	
上智大学	35 (6)	24 (6)	36	29	14	22	7	4	13	
東京理科大学	51 (5)	30 (4)	47	39	31	45	43	44	29	
中央大学	26 (2)	14 (1)	17	30	22	13	37	11	24	
立教大学	14 (2)	3 (0)	12	10	8	4	4	4	5	
明治大学	40 (4)	20 (1)	43	39	40	43	49	38	52	
その他(医歯系)	27 (5)	11 (1)	17	14	31	13	24	25	21	
その他(上記以外)	112 (9)	32 (2)	58	53	70	58	59	25	73	
海外*人数	1 (0)	1 (0)	2	2	1	0	1	0	0	

77期が入学しました

学校長のことば

望月 伸一郎

新入生のみなさん、入学おめでとうございます。先週は関東地方も雨がちでしたが今日は本当に見事に晴れ渡り、77期の出発にふさわしい絶好の入学式日和となりました。

正門から入ってすぐのところにある大きな階段の左側に、大きなガラス製のサインボードがあります。今朝は、その横で記念写真をとっているご家族もたくさんいらっしゃいました。そのサインボードには栄光学園の校章・校名が記されており、その下に、栄光学園の「栄光」という校名の由来である「ad maiorem dei gloriam」という言葉が書かれています。これは、「より大いなる神の栄光のため」というラテン語の言葉です。

この「栄光」という言葉は、聖書にしばしば出てくる言葉です。聖書に出てくる「栄光」のキリスト教的な意味は、「そのものの素晴らしさが輝き出すこと」です。

冬の間は枯れてしまっているのか、一見してもわからないような草や木でも、春になると、それぞれの時期にそれぞれのきれいな花をつけ始めます。それは、そのものの素晴らしさが輝き出る、すなわち栄光を現している、といえます。

私がみなさんに伝えたいことは、栄光をあらわす、つまりその人の素晴らしさが輝き出る、というのは、なにも優秀な成績をあげたり、難しい入学試験に合格したり、コンテストや競技で優勝することだけではありません。

例えば、学校生活のなかでも、授業中に、難しい数学の問題をうんうん唸りながら考えたり、面白い話を聞いて大声で笑ったり、外で身体を思いっきり動かして体操したり遊んだり、そして毎日学校に通っているというそのこと自体が、すでに素晴らしさが輝き出すこと、栄光をあらわしていることであると思います。

栄光の卒業生はすでに一万人以上います。卒業生の栄光の表し方も実に様々です。宇宙飛行士となって地球を取り巻く大気圏の外で活躍していた人もいます。熊本県の山あいの集落にずっと住みながら、そこに暮らす人々のために、見事な竹細工を制作し続けている人もいます。同じ医者として活躍している栄光の卒業生であっても、大学の研究所の中で、認知症など、その病理が解明され尽くしていない病気の先端的研究をしている方もいます。一方で人口が減少し過疎化が進んでいる地域で、一人一人の高齢者のために医師として頑張っている方もいます。栄光学園で育てられた種は、実に様々な形で成長するものだと、卒業生たちと会うたびに実感します。

栄光学園とは、学校の校舎のことでも、校章のことでもありません。栄光学園とは、ここに集まっている生徒ひとりひとりのことです。みなさん一人一人はすでに栄光学園であり、その構成員です。是非、これからその栄光を表す人になっていってください。

在校生代表のことば

75期 N君

新入生の皆さん、本日はご入学おめでとうございます。この場を借りて、新入生の皆さんの不安を少しでも解消できるよう、栄光学園を紹介しようと思います。

まず、学習についてです。栄光生が全員持っている学生手帳の「学習」というページに、「自学自習の精神」



と載っています。ただ、「自学自習の精神」って抽象的ですよ。その精神を感じたエピソードを紹介しします。英語の授業のことです。先生は問題集や自作のプリント、教科書などを細かく組み合わせさせて授業なさっています。生徒はどの教材を使って復習するかを自分で決めなければなりません。先生から指導はありますが、細かくあれこれ指定することはなく、「これはやっておいてね」と言われる程度です。つまり、何をいつどれくらい復習しなくてはならないのかを、自分で考え、判断しなくてはならない。栄光学園に入学すると、学習は主体的に取り組むものとなります。

次に友達についてです。栄光学園では、どういう訳か、誰でも友達ができます。一つ例を挙げましょう。「一人の少年がいました。彼は休み時間にシロツメクサ、いわゆるクローバー、を刈り取っていました。また、その隣で、地面を掘っている少年がいました。この二人は次第に親しくなり、半年後には、休日に一緒に出かけるようになりました」これはお察しの通り、私の実話です。途中のことを省いたとはいえ、意味が分からないと思います。が、安心してください。私も意味が分かりません。とにもかくにも、友達という点について、みなさんは過度に心配することはないと思います。一応言っておくと、私は小学校時代友達がほとんどいなかった人です。そんな人でもなんかやや友達がいる人になっていますから安心してください。

もうひとつ紹介しします。栄光には様々な委員会活動があります。それぞれ目的や役割を持って運営される有志による活動です。有志ですので、やってもやらなくてもいいのです。しかし、自ずと人が集まるのです。例えば、栄光祭実行委員会。すべて生徒がやっているのです。この大規模な委員会、採用審査を行うくらい人気でした。栄光学園ではこうした生徒の自主的な活動も盛んです。是非応募してはいかがでしょう。

栄光学園について少しは知っていただけただけでしょうか。皆さんに伝えたいのは、気楽に色々なことに挑戦してほしいということです。それでは改めまして、皆さん、ご入学おめでとうございます。

新入生代表のことば

77期 O君

私たち栄光学園、第七十七期生は、待ちに待った入学の日を迎えます。「七十七」は「七」が並び、チャンスが訪れそうな縁起の良い数字です。私は、第七十七期生と、この幸運をものにできるような努力を惜しまず、支え見守ってくださる家族や、迎えてくださっている方々への感謝の気持ちを忘れず、切磋琢磨しながら充実した六年間を過ごしたいと考えています。

小学五年生の時、母に連れられて学校見学に訪れた際、校舎の外観の美しさに目を奪われました。また、「こんなに広いグラウンドで仲間と思いきり遊べたら、どれほど楽しいだろう」と心が弾みました。六年生の時には栄光祭に行きました。あいにくの雨でしたが、「謎解き」や「将棋の対戦」など、室内での楽しい催し物を体験し、「栄光学園に入学したい」という気持ちを強く持つようになりました。入学後、学校で仲間とグラウンドで思う存分、野球やサッカーをしたり、栄光祭や様々な課外活動に参加できると思うと、今から楽しみで胸がふくらみます。



在校生の活躍・活動

73期 東京散策

2023年2月16日、当時高校1年生だった73期は、一日校外学習に参加しました。グループに別れて都内を散策するという概要で、実行委員が立ち上げられました。集まった委員は十名ほど。テーマは「東京の景色を楽しむこと」に決まりました。

当日の天気は快晴。とはいえ、風が強く気温も低め。それでも、生徒達は思い思いの場所に向向いて、普段にはない時間を楽しんだようでした。



スカイツリーは私が支えます ▲

科学の甲子園全国大会 二度目の総合優勝

2023年3月17日～19日に茨城県つくば市で第12回科学の甲子園全国大会が行われました。神奈川県代表として出場した本校チームが通算二度目の総合優勝を飾りました。筆記や実技の各競技に一つも上位入賞しないでの総合優勝は大会史上初めてのことで、チーム全体のバランス良さと、選手個々のポテンシャルの高さが勝因だったかと思われます。

総合優勝を受けて、今年5月に行われるサイエンスオリンピック(米国で最大規模の「科学の甲子園」)にグローバルアンバサダーとして実地参加することになりました。



会場にて作戦中 ▲

76期 中2東京遠足

2023年4月25日に実施された中2の東京遠足では、班行動で皇居・上野公園・国立科学博物館を訪問したようです。

駅前広場(東京駅)には既に多くの生徒が集まっており、僕たちの班のメンバー5人も集まった。そして駅前広場を出発。

最初は皇居を回る。その前に「ミッション」が書かれた紙が渡された。僕たちには、コース上にいくつ銅像があるか数えるミッションが課せられた。歩き始めてすぐに、上着を着てきたことを後悔した。思った以上に暑かったのである。脱いで手に持つことにしたがいくらか邪魔になった。途中にあるチェックポイントでは先生に写真も撮っていただき、さらに歩いて東京駅に戻ってきた。僕たちは広場にいた先生にコース上の銅像の数を「11」と伝えた。すると先生は「まあ、だいたいその辺りかな。」多分違ったのだろう。

(76期 T君)



東京駅にて ▲

第76回栄光祭

今年の栄光祭を、去年からどう変わったのか？を軸に振り返っていきたいと思います。



縮まっていこう！ ▲

1. 入場者制限の完全撤廃

完全撤廃後初の栄光祭なので、規模感が分からなかったり引き継ぎが行方不明だったりいろいろとトラブルがあった。今となつてはなつかしい話。

2. 食品部門の復活

復活とは言っても、どの程度まで衛生を考えるかのルールが途中で二転三転していたので、食品部門は苦労が多かった部門だったはず。お疲れ様でした。

3. 公演部門の復活

去年までは総務部門・機材部門・オンライン部門に分かれていた公演催し物関係の部門をまとめたのが公演部門。トピックとしては小講堂でも公演をやることになったこと。予約システムを稼働させたので、栄光生に見ていただけなかったのは申し訳ない。

4. 校内ツアーの復活

校内ツアーは第70回ではやっていたらしいので、それ以来の復活。お客さんにはご好評いただいたようであり、2日間で当日枠は定員が300人弱のところ494組、1351人の応募があったらしい。おそろしや。

5. 染髪会の復活

幹部会議で幹部も染髪をするか総務部門長に聞かれて、誰もやりたくないとい即答していた記憶。

6. いろいろな案の公募の実施

Tシャツデザインや装飾案などいろいろと募集した。あと目安箱もあったのだが、総数はなんと1件だった。なんか寂しいな。

7. 催し物掛け持ちの制限の変更

例年は、催し物掛け持ちは2個まで、役職持ちは掛け持ち禁止というルールだが、個別の事情を鑑みてそれ以上の掛け持ちをして良いこととした。その特例によってトラブルは発生しなかったので何よりだが、特例を申請していた人は当日近辺は忙しそうにしてた印象。お疲れ様でした。

8. 催し物構成員仲介制度の創設

なつかしの制度。利用してくれた方、ありがとうございます。ちなみに自分はずっとマッチングアプリと呼んでいた。

9. 携帯電話の利用制限の緩和

個人的には難しいと思っていたので、認めて頂いたときの驚きと良かったです。

10. 大判プリンターの導入

情報科からお貸しいただいた。プリンターくんの機嫌が良いときと悪いときの落差が激しい。

(73期 Y君)



掲示状態、確認中 ▲

2022年度でご退職された先生

黒木宏先生、伊藤直樹先生、横山尚幸先生、崎村克己先生、円福寺恭司先生。

学生時代はお世話になりました。ありがとうございます。とはいえ、今後ともよろしくお願ひします。

同窓会 information

2023年度 同窓会定期総会報告 (1)

【日時】2023年5月13日(土)13:00～15:05

【場所】アロイジオ会館、Web会議(Zoom利用)の併用

【出席者】(カッコ内の数字は卒業の期)

会長:山田宏幸(30)

副会長:青木嘉光(10)、高橋英治(28)、河原光博(37)

会計監事:上甲雅敬(33)

事務局長:前山茂雄(13)

常任委員:【部長】**米山 操**(30)、**村井基彦**(37)、**大須賀喜彦**(39)、**近藤亮介**(45) 【副部長】**川村貞知**(37)、**齋藤琢郎**(42)、**米村俊彦**(43)
鈴木宙明(4)、**河相董**(8)、**八木英樹**(9)、**太田元夫**(11)、**大島弘尚**(14)、**菱沼徹臣**(17)、**関根修一**(20)、**名執宗彦**(22)、**坂口恵**(23)、**平島寛**(24)、**島崎裕之**(26)、**中路喜之**(29)、**木村浩一郎**(30)、**増木洋介**(30)、**渡邊耕太郎**(38)、**藤代真**(43)、**石田明久**(51)、**渡辺丈**(69)

(以上役員 31名)

支部役員:田中尚武(逗葉栄光同窓会、10)、平岡慎雄(インディアンクラブ、17)、古谷哲夫(物理部OB会、21)、金子和(茅ヶ崎栄光同窓会、27)、水島一郎(バドミントン部OB会、28)、森田真(明治安田生命栄光会、29)

(以上支部役員 6名、除く(兼)出席者)

各期委員:佐伯和良(3)、三春勝正(6)、齋藤肇(7)、小久保勝右(9)、奥山巖(11)、高須保(13)、杉浦俊紀(16)、大柴晋(23)、松本直樹(26)、周佐喜和(28)、前田真孝(29)、坂本淳(51)、三橋敏順(54)、小仁所和樹(71)、関根有悟(71)

(以上各期委員 15名、除く(兼)出席者)

総計 52名 ー①

議決権行使書による回答者85名 ー②

有効投票者数合計 137名 ー①+②

オブザーバー:徳永良輔(1、後援会前理事長)

来賓:望月伸一郎 校長

議長:出席委員の互選により、増木洋介常任委員(30)

会長挨拶 (山田宏幸会長)

本日は足元の悪い中、2023年度総会に出席頂き感謝したい。アフターコロナとなり、アロイジオ会館での出席者も増え、ようやくという感じがする。Zoomでも多くの方に参加頂き感謝したい。

本日は、第1号議案として2022年度決算承認に関する件、第2号議案として役員選任に関する件、第3号議案として2023年度事業計画承認に関する件、第4号議案として2023年度収支予算案承認に関する件の4議案の審議をお願いする。また、財務特別委員会からの中間報告がある。限られた時間であるが、闊達な議論をお願いしたい。



挨拶をされる望月校長 ▲

学園校長挨拶(望月伸一郎 校長)

皆様に心からお礼を申し上げたい。コロナ下でスタートした未来EiKO募金は3年目を迎えるが卒業生から手厚い支援を頂いており、学園の教育活動に役立てられている。また、去年は32期・42期、今年は33期・43期のOBに、毎週の高1OBゼミにお越し頂いている。生徒にとってこの上ないキャリア教育となっている。

同窓会には様々な面で支援を頂いており、このようなつながりこれから学園の柱として大事にしたい。新校舎は6年となり、もう「新」とは言わないのかもしれない。今年は同窓会が設立70周年、ALUMNIも次号が100号と聞いている。節目となるので、学園としてもできるだけ連携させて頂きたい。

学園の近況としては、2020年3月にコロナで一斉休校となるなどしたが、この4月からはマスク着用は自由となった。学年による違いはあり、まだ6割くらいは着用しているものの、徐々にマスクを外す生徒が増えている。部活もリアルな活動が増えてきて、去年はロボットコンテストの日本代表を決める大会があったが、本校の生徒が優勝し、国際大会に出場した。国際大会が開催されたのはドイツのドルトムント、この地はフォス先生がお生まれになったところであり、フォス先生も支援してくれているのではないかと感じた。科学の甲子園でも、5年ぶり2度目の全国優勝となった。今年アメリカの大会に日本代表として出場する。そのほかに英語部、囲碁将棋部も活躍している。学園では、iPadも高校1年以下に一人1台ずつ貸与している。

最近象徴的だったのは、この4月に6人専任教員を採用したが、そのうち5人は女性であったこと。優秀な教員を採用した結果である。現在、学園の専任教員の5分の1が女性であり、非常勤の教員は約半数が女性である。自分が着任したとき、同じくらいのイエズス会教員がいた。学校の神父の人数が減っているという流れは東アジアにとどまらず、ヨーロッパ、アメリカでも同様であり、世界的な流れ。イエズス会校4校で協議しているが、キーワードはネットワーク化である。国内だけでなく、世界の中のイエズス会校とどうつながっていくか。コロナ下でとまっていたところがあるが、今年はフィリピンのみならず、ボストンのイエズス会校との交流もある。このような交流を一層進めていかなければならない。

今後もイエズス会校として、他の学校にない特色をもって運営したい。これからもよろしく願いたい。

第1号議案 2022年度決算承認に関する件

近藤財務部長が、2022年度収支計算書及び貸借対照表について説明を行った。概要は以下の通り。(※収支決算についてはP.23に掲載の予算案をご参照ください)

(1)2022年度収支計算書

収入の部:当期収入は、過年度会費収入の予算比+590千円などがあり、当期収入計で予算比+988千円

支出の部:総務費は合計で予算比557千円、事業費は合計で予算比▲1,705千円となり、当期支出計で予算比▲1,148千円。

これは コロナ禍が落ち着き、当初の想定よりもリアルでの会議やイベント等の開催が増加した一方で、やはりコロナ禍の影響で計画していた事業活動が制限された事ものもあったことなどによるもの。総務費について予算よりも実際の支出が多かった。主な項目は、給与265千円、交通費165千円、印刷費435千円、会議費135千円、慶弔費152千円など。特に印刷費の予実差が多額となったのは、2022年度の終わりに多くの封筒等を発注したことによるもの。事業費について、会報印刷費▲674千円は、見積内容等をさらに精査したことによるもの。編集取材費▲100千円、コンテンツ制作費▲500千円、フォス校長特別展運営費▲100千円、支部・活動グループ等支援費▲97千円、栄光OBフォーラム運営費▲360千円等は、コロナ禍により活動が制限または延期されたことによるもの。

その結果、2022年度の収支は、予算上は▲362千円の赤字予算だったが、1,992千円の黒字となった。

(2) 貸借対照表

2023年3月末の資産合計は、53,044千円。負債については、翌期以降の会費に対応する前受金94,340千円を差し引いた差引きの正味財産は、43,610千円。

ここまでの説明について、以下の質問と回答があった。

質問1:年間千数百万円の予算規模に対して、5000万円を超える繰越金は多いように思うが、説明頂きたい。

回答(近藤財務部長):この後財務特別委員会の中間報告も行うが、今後、同窓会活動が活発化すると、平年ベースでの赤字も見込まれる。現時点では5000万円を超える繰越が必要とはいえないかもしれないが、今後この繰越金をどう使っていくか、検討したい。

質問2:2022年度事業報告において、財政についての検討がなされたということであるが、その検討結果を知りたい。

回答(近藤財務部長):コンビニ払いを導入し、会費納入の減少を押さえられた面があった。財務検討特別委員会にて、会費納入方法等についても来期以降も詳しく検討していく。

(3) 会計監査報告書

上甲会計監事から報告があった。監査報告書にある通り、2022年度の栄光学園同窓会収支計算書及び貸借対照表の各事項について監査を実施し、その内容は適正なものと認めるとの報告があった。

第1号議案の(3)に関する質問・意見の確認を行ったのち、第1号議案の(1)、(2)、(3)について、議案の可否を諮った。アロジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第1号議案は承認された。

第2号議案 役員選任に関する件

山田会長から、議案書に沿って、役員候補者について説明があった。役員候補者は以下の通り。常任委員については、議案書記載の通り。

会長: 河原光博(37期)

副会長: 高橋英治(28期) 大須賀喜彦(39期)

会計監事: 原田清朗(24期) 上甲雅敬(33期)

事務局長: 前山茂雄(13期)



71期新会員の挨拶 ▲

上記説明を受け、増木議長が第2号議案に関する質問・意見の確認を行ったのち、議案の可否を諮った。アロジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第2号議案は承認された。尚、関連報告事項として、2023年度の執行体制の報告があった。執行委員、幹事については議案書に記載。

第3号議案 2023年度事業計画承認に関する件

第2号議案で会長就任が承認された河原新会長と副会長就任が承認された大須賀新副会長が、2023年度事業計画について説明を行った。概要は以下の通り。

2023年度は、withコロナ、afterコロナでの同窓会運営を想定している。3年間コロナ禍でリアルな活動が厳しく制限されてきたが、この状況から脱却しリアルをベースとしたハイブリットスタイルへと舵を切り、“人を繋ぐ、人が繋がる同窓会”を多様な形で実践していく。一層Web環境を充実させ、どのような状況においても同窓会事業を円滑に進めていくことができるようにしていく。

2023年度は、同窓会創設70年の節目の年となる。同窓会執行部も新体制となり、70年を祝して、秋頃には同窓会70周年事業を実施する予定である。また記念グッズなどの企画・検討も進めていく。

70周年事業には、60期代、70期代の若手会員にもスタッフとして参加してもらえるよう工夫している。田浦から大船旧校舎、そして大船新校舎の3世代に亘り“繋がる”企画を目指す。また従来の同窓会事業に加え、若手会員が自主的に企画、運営する「栄光ヒミツキチ」など、多様に「繋がる」ための、自由な活動への支援も、前向きに進めていく。

新たな時代を迎え、学園も様変わりする中で、『栄光学園同窓会のビジョン』検討特別委員会からの答申をベースに今年度の計画も策定している。また財政については、ビジョン検討特別委員会の後に立ち上げた「財務検討特別委員会」で、引き続き“会費”と“事業”のあり方や、具体的な課題解決についての検討を進め、可能なものから手法の工夫、改善をしていく。

ホームページや会報The Eiko Alumniのさらなる充実、EACONによる名簿情報の充実と会員相互の情報共有、利便性の向上を促進していく。OBフォーラムは、Web環境を利用した新たな形を定着させていくとともに、リアルでの開催についても、内容・手法を踏まえ検討していく。イエズス会校4校同窓会の共同イベントも、連携し実施していく。

学園のアーカイブ情報の整理に引き続き協力するとともに、フォス校長特別企画等の常設展示も学園と協議していく。また、アーカイブ情報のホームページ掲載などもさらに進めていく。

議案書に沿っての、財務部、事業部、広報部、総務部の個別の事業計画の説明を受け、第3号議案に関して以下の質問・意見があった。

2023年度 同窓会定期総会報告 (2)

意見1: 栄光祭の当日に追悼ミサを行っていた。今年は3年分ということで、11月3日に追悼ミサを行う。これも同窓会の事業として付け加えてほしい。

回答(河原会長): 追悼ミサについても、同窓会の事業として行っていく。

質問3: 町内会など、地域との連携ということを考えているか。

回答(河原会長): 玉縄町内会との連携等は考えている。学園の方では、地域のお祭りへのダブルダッチの派遣など行うようである。新執行部の2年の任期で検討したい。

意見2: 個々の事業は、十分に進めて頂いて賛成である。前文にある、栄光学園同窓会のビジョン検討特別委員会の答申を参考にしたというが、具体的などころが見えない。それを明確にして進めてもらいたい。同窓会は競争相手、対抗相手がいない。企業と違う。兄弟校はいるが、同窓会は栄光が最初である。同窓会は独立独歩でいける。この2年間でビジョンの検討を具体的に十分にやり、1期から71期までの様々な期の委員が関わる組織にしてほしい。

回答(河原会長): ビジョン検討特別委員会については、2021年から2022年の2年にわたり、検討してきた。検討結果はALUMNIで報告している。各世代に合わせた事業を行いたいという提言をしている。コロナで止まっていることもあるが、これからの2年で実現していきたい。その際は、会員の意見を聞いて進める。執行部だけで進めるのではなく、同窓会会員にも参加する事業に対して積極的にスタッフとして関与して頂きたい。

意見3: OBフォーラムのうち、何回かに1回は地域に公開したらどうか。神奈川新聞とも連携するなど。

回答(河原会長): 過去に公開(近隣自治会役員をご招待)したこともある。前向きに検討したい。

質問4: 丹沢ヒュッテがどうなっているか。使わないと県から借りている土地なので取り上げられてしまうのではないかと。学園と相談しながら使う方法を考えてほしい。

回答(河原会長): 山岳部OB会と学園で活用の検討を進めている。(本誌P.14に関連記事)

意見4: 広報部について。デジタルマーケティングの観点から、情報発信をフェイスブックに限定する必要はない。若者世代に訴求する他の媒体も使うべきではないか。

回答(河原会長): フェイスブックについてはSNSの試行というところであったが、他の媒体もある中で、若手の幹事の協力なども得ながら検討したい。

意見5: EACONの利用について、若手の意見も聞くべき。

回答(増木議長): 意見について執行部において参考として頂く。

2023年度(令和4年度)収支予算案

栄光学園同窓会

自2023年4月1日 至2024年3月31日

収入の部		(ご参考)		
科目	2022年度実績	予算	備考	(単位:円)
1. 前年度繰越金	49,419,419	51,052,191		
2. 当期収入				
入会金収入	528,000	519,000	70期入会金@3,000円×173名	
当年度会費収入	11,167,500	11,000,000	14期～70期会費収入	
通年度会費収入	1,260,000	500,000		
簿記講習収入	-	-		
受取利息収入	255	1,000	定期預金等の利息	
雑収入	77,777	5,000	寄付金等	
前受金収入	3,489,000	6,000,000	71期179名入会金、4年分一括振替前受	
(調整勘定)				
前期末前受金	△4,278,000	△4,217,000		
当期収入計	12,244,532	13,808,000		
収入の部合計	61,663,951	64,860,191		
支出の部				
1. 総務費	2,472,102	2,500,000	事務局長・事務局員給料	
通信費	482,628	500,000	郵送料、電話料等	
交通費	281,484	300,000	各委員会・事務局員交通費等	
印刷費	238,920	500,000	各種印刷(会費請求書、変更集書等)	
事務用品費	121,967	120,000	コピー用紙、インク、封筒代等	
会議費	79,985	150,000	定期総会・委員会等	
娯楽費	285,000	350,000	香典、生花代	
機具備品費	315,662	1,500,000	リース料、PC買い替え等	
手補修費	410,789	400,000	振込・ファクタリング会社等	
雑費	73,370	50,000	機器メンテナンス料等	
予備費	-	50,000		
小計	4,761,907	6,470,000		
2. 事業費				
会員リスト印刷費	1,101,100	-		
会報印刷費	1,584,937	2,000,000	栄光アラムナイ印刷費	
発送費	1,478,824	1,600,000	栄光アラムナイ等発送費	
編集取材費	-	100,000	アラムナイ及びホームページ取材費	
ホームページ運営費	986,164	1,200,000	ホームページ及びEACON業務委託費	
コンテンツ作成費	-	500,000		
ホーム・カミング・デー運営費	-	-		
フォス校長特別展運営費	-	550,000		
支部・活動グループ等支援費	69,523	600,000		
OBゼミ運営費	100,000	100,000		
栄光OBフォーラム運営費	47,370	400,000		
JBHAF等活動費	-	150,000		
同窓会記念品製作費	231,935	250,000		
寄付金	250,000	250,000	東ティモールエイズ協会支援	
小計	5,849,853	7,700,000		
当期支出計	10,611,760	14,170,000		
次年度繰越	51,052,191	50,690,191		
3. 支出の部合計	61,663,951	64,860,191		
収支	1,632,772	△362,000		

質問・意見聴取の後、増木議長が第3号議案の可否を諮った。アロイジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第3号議案は承認された。

第4号議案 2023年度収支予算案承認に関する件

近藤財務部長が2023年度収支予算案について、議案書に基づき説明を行った。概要は以下の通り。

収入の部: 当期収入合計は、11,588千円の予算としている。

支出の部: 総務費については、6,570千円の予算としている。器具備品費は支出が一巡したので、減額している。補修費は、EACONの機能追加のためである。事業費については、9,350千円の予算としている。リアル会合の増加を見込んで予算を見込み、70周年記念式典の運営費も含めている。結果、当期支出の合計は15,920千円の予算となっている。

その結果、2023年度の収支は、△4,331千円の赤字予算となっている。

上記の第4号議案に関して以下の質問・意見があった。

質問5:70周年記念式典200万円は具体的に何を計画しているのか。

回答(河原会長):二つのイベントを予定している。一点目は、70周年記念パーティを今冬頃に開催。もう一点は、70期生が中心となり企画するイベント。昨年卒業した70期は、コロナの影響で、高2だった2020年に自らが中心となるメイン行事(栄光祭・体育祭)がいずれも中止。さらには、修学旅行も延期を重ねたうえで結局中止となるなど、コロナの影響で学園生活の大きな部分を失った期であることから、同窓会で70期を盛り立てて欲しいという学園からの依頼を受けていた。そこで、同窓会70周年記念事業にて70期を中心とするイベントができないか、執行部で検討していたもの。70期と協議したところ、「学園に戻りたい」「仲間や先生方と思い切り活動したい」という前向きな意向を確認した。これをうけ、10月15日(日)に学園の施設を借りたイベントを企画している。この企画は、若手のみを対象とするイベントではないので、上の世代の期も、新しい校舎を使ったイベントに参加してもらいたい。

意見6:財政について、会費の支払いが終わった期からの寄付も計画したかどうか。紙の名簿があったときは、それが会費納入の意識向上にも役に立っていたと思うが。

回答(河原会長):頂いた「寄付」の意見は検討している。貴重な意見であると理解しており、今後も引き続き検討したい。

質問・意見聴取の後、増木議長が第4号議案の可否を諮った。アロイジオ会館及びオンライン出席者による賛成と議決権行使書分と併せ、賛成多数と認め、第4号議案は承認された。

会長挨拶など

今総会をもって退任する山田会長

執行部として同窓会に20年以上関わってきた。この10年は副会長、会長という重責を担わせて頂いた。大変なこともあったが、名誉なことであるし、楽しいこと、ためになったことがたくさんあった。すべての皆様に感謝申し上げます。

70周年という節目に退任し、次の世代にバトンを渡せるのは嬉

しいこと。新執行部は、とても頼りになる、素晴らしい執行部である。今後の執行部も是非よろしくお願ひしたい。あらためて感謝申し上げます。

退任する青木副会長

同窓会では、総務部長、副会長を務め、10年となった。先輩・同期生・後輩という同じ精神を持つ同窓生の親睦を深めたいと思ってやってきた。この間、たくさんのご支援ご協力を頂き感謝したい。同窓会も70周年ということで、1万人を超える組織となり、ますます色々な活動がなされるものと期待している。

“Old soldiers never die; they just fade away”ありがとうございました。

河原新会長

2017年から常任委員となり、まだ丸6年である。諸先輩が作り上げた同窓会という組織においては若輩者である。ここ2年は副会長として、様々なことを実際にやってみて、失敗もしながら教えて頂いた。これまでの歴史とご苦勞がよくわかり、素晴らしい組織であると思った。それとともに、会長として期待に応えられるか不安もあるが、一つ一つ仲間とともに進めていきたい。

自分は37期であり、フォス先生が学園を去られた翌年に入学したポスト・フォス世代である。執行部の中心もポスト・フォス世代となっており、新しい時代に進んでいかなければならない。

会費は、1986年に今の会費となり、その後約40年変わっていない。これから先の70年を見据えて、永続的なものとなるよう、この2年は色々なことを見つめ直して考えていきたい。若い人には、新たな風を吹き込んでほしい。様々な世代が羽を伸ばせる組織にしたい。同窓会が何をしてくれるかではなく、会員自身が何をするか、“Men for others with others”を体現する組織としてやっていきたい。新執行部の未来への約束としたい。

新たに会員になった71期関根さんが閉会の辞を述べ、2023年度栄光学園同窓会定期総会は滞りなく終了した。

以上



所信を述べる河原新会長 ▲

山田前会長の声掛けにより、現在の収支状況を踏まえた今後の同窓会事業と会費の在り方・会費納入率向上策の検討等を目的に、2022年10月より「財務検討特別委員会」を組成し、検討を重ねてきた。現在の検討状況について、本紙面で中間報告したい。

表1:同窓会の収入、支出、収支及び現預金残高の推移

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収入	15,341	12,219	10,811	11,174	14,869	11,447	11,816	12,244	15,014	11,588
支出	15,905	11,711	11,323	13,222	13,053	14,312	10,683	10,611	13,021	15,920
収支	△565	508	△511	△2,047	1,815	△2,864	1,133	1,632	1,992	△4,331
現預金残高	51,386	51,894	51,382	49,335	51,150	48,286	49,419	51,052	53,044	48,712

1. 設置背景と目的

2023年5月の同窓会総会において報告している同窓会の収入、支出、収支及び現預金残高の推移は表1の通り。直近3年間はコロナ禍で同窓会事業や各支部・各期の活動が制限され支出が抑えられていたため、結果として単年度での黒字決算となっている。しかしながら、コロナ禍が落ち着いた後は活動が活発化する見込みであるため、支出額は増加が見込まれる。

同窓会本部の事業としては、本年度(2023年度)に同窓会70周年記念イベントを企画しているほか、冊子の会員名簿の代替であるEACONのデータ管理の強化、同窓会報”THE EIKO ALUMNI”のさらなる充実、また対面とリモートの活動をさらに推進するためのインフラ整備にも十分にコストを掛けていく必要があると考えている。

さらには、昨今の物価上昇等を踏まえ、同窓会実務の維持管理コスト自体も増加が見込まれるため、現在の会費水準・納入率が続いたと仮定すると、将来的には収支の悪化が予想される。

このような背景のもと、当同窓会が、ずっと離れていた会員が肩肘張らず戻って来られる暖かい「家」として、さらには70年以上の幅広い世代を繋ぐ役割を将来も果たし続けられる「持続可能な組織」でいられるよう、運営の根幹である財務面の課題を整理・検討し、その解決を図ることを目的として「財務検討特別委員会」を設置した。

2. 主な論点

まずは、検討が必要な現状の課題を下記の5点と整理した。

① 納入率の改善

各期の会費納入率は次ページの表2のとおりである。2022年度を見ると、75歳超で納入免除となっている13期までは概ね70%を超える高い水準となっているのに対し、14期から34期までは概ね50%程度、35期以降はほとんどの期で40%以下となっている。総じて若手世代の納入率が相対的に低い。会費納入のインセンティブが働くような、各世代に合わせた魅力ある事業展開が必要。

一方、現状では、会員が自身の会費納入状況を確認する手段が無い(注1)ことも、未納入のまま放置される原因のひとつとなっている。会員が自身の会費納入状況を確認できる仕組みの構築は、まずもって必要と認識。

注1) 会費納入状況は、事務局に個別に確認するしかない。

② 納入手段

会費の納入手段は、銀行口座からの引落し(毎年2,500円)、コンビニ納入(4年に1度10,000円)の2つ。銀行口座からの引落としをベースに、ネットバンキング等からのオンライン決済等、より手軽な納入手段の検討が必要。

③ 納入方法

毎年の「口座引落し」でない場合は、期ごとに分けた4つのグ

表2:期別の会費納入率およびその推移(注2)

期	2022年	2016年	2002年	期	2022年	2016年	2002年	期	2022年	2016年
1	68%	73%	73%	26	51%	47%	53%	51	36%	28%
2	85%	87%	70%	27	61%	58%	55%	52	34%	29%
3	83%	82%	79%	28	40%	35%	50%	53	35%	39%
4	73%	73%	71%	29	55%	49%	58%	54	42%	43%
5	76%	76%	58%	30	47%	48%	50%	55	36%	34%
6	72%	72%	59%	31	45%	42%	55%	56	36%	28%
7	77%	76%	66%	32	48%	40%	47%	57	32%	37%
8	67%	67%	62%	33	50%	45%	50%	58	30%	32%
9	72%	69%	62%	34	44%	39%	55%	59	29%	33%
10	72%	72%	57%	35	27%	28%	33%	60	32%	24%
11	70%	55%	61%	36	39%	30%	23%	61	24%	100%
12	71%	62%	54%	37	39%	37%	28%	62	29%	100%
13	71%	58%	59%	38	24%	26%	46%	63	34%	100%
14	64%	56%	51%	39	41%	33%	46%	64	37%	100%
15	53%	55%	46%	40	33%	26%	68%	65	35%	
16	60%	61%	60%	41	34%	29%	30%	66	26%	
17	47%	47%	49%	42	29%	26%	64%	67	100%	
18	52%	51%	51%	43	36%	30%	62%	68	100%	
19	53%	49%	54%	44	24%	17%	52%	69	100%	
20	57%	56%	55%	45	35%	34%	43%	70	100%	
21	57%	59%	62%	46	36%	35%	100%			
22	59%	60%	62%	47	36%	31%	100%			
23	51%	46%	53%	48	30%	22%	100%			
24	58%	52%	57%	49	23%	29%	100%			
25	47%	49%	53%	50	36%	37%				

注2) 青地の部分は会費免除対象期のため、納入最終年度の納入人数を元に算出している。また、2002年の46～49期、2016年の61～64期、2022年の67～70期については、在学時の積立金から4年分の会費を卒業時に一括納入しているため、納入率100%となっている。

ループごとに、4年に1度「コンビニ払い」にて納入いただいている。35年以上続く仕組みで一定の合理性はあるが、納入手段の見直し等と合わせ合理的に見直すことも視野に入れ検討する。

また、管理実務の観点からは、会員ごとの納入状況や一人ひとりの未納付額の管理等が複雑で、事務局の負荷が高いのも事実である。

④ 納入管理の事務負担

現在会員は12,000名を超えさらに増加し続けており、上記③に記載の通り、会費の管理実務は膨大かつ複雑なものとなっている。事務局の限られた人員の中では、事務の整流化やシステム化は急務となっている。

⑤ 納入額

2,500円/年という会費の金額は1986年から変更されていないが、物価上昇(注3)による同窓会維持管理コストの増大、さらには、会員の多様なニーズに合わせた同窓会活動の拡大等の要因を考慮した、適正な会費水準については、慎重な検討が必要である。

注3) 消費者物価指数は約1.2倍

上記の骨子を同窓会総会場で紹介したところ、その場にて以下の質疑があった。

質問: 会費納入率44.4%は低い。他校の納入率は把握しているか。また、未納付の会員の中には、できれば納付したいと思いつつ、過去の未納付代金が大きくなり、躊躇している人もいると思うが、何か緩和策はないか。

回答: 姉妹校については、把握しており、栄光同窓会は必ずしも低いわけではない。銀行引落しの設定をして頂いた方には、過年度の請求は行わない扱い、コンビニ払いも、最大で8年分2万円の支払いとしている。

質問: 終身会費を検討したらどうか。運営経費はインフレの影響があるのではないか。

回答: メリットは大きいですが、卒業時に一括して支払うことについては、卒業時支払の場合は本人ではなく親からとなり、その後の帰属意識が弱くなるという面もある。また、インフレについては、現時点ではそのような状況にはないが、今後、影響はありうるものと考えている。

3. 今後に向けて

論点ごとに議論を進めながらも、実現可能な施策はスピード感を持って実行しながら、今後の同窓会運営に資する検討を進めていく。今期中に一定の方向性を示し、2024年5月の同窓会総会で会員各位に諮れるよう、引き続き委員会で検討して行きたい。

財務部長 近藤亮介(45期)

OBゼミ

同窓会HP
> 活動報告・会報記事
> 同窓会事業

2023年度のOBゼミは33期と43期が担当します。

OBゼミは、高一の授業「高1ゼミ」と、全学年在校生および卒業生等も聴講可能な「放課後ゼミ」があります。「放課後ゼミ」聴講ご

希望の方は同窓会事務局までお問い合わせください。今後の情報は同窓会Facebookにて順次告知していく予定です。

事業部

今年度実施済みのOBゼミ

4月26日「弁理士の仕事と知的財産権」
寺川賢祐(43期) 創光国際特許事務所

6月7日「日本の外交／安全保障」
赤堀毅(33期) 外務省

5月10日「中国ビジネス34年、辿り着いた自動車業界」
鶴岡義久(33期) 三菱自動車工業(株)

6月14日「プロジェクトファイナンスってなに? ～匠の金融～」
三宅仁司(33期) (株)明電舎

5月17日「インフラとしての鉄道のために」
野本浩(33期) 東日本旅客鉄道(株)

6月28日「理工系大学における自由な研究開発と、
企業との協力による社会実装」
天谷賢治(33期) 東京工業大学

5月31日「自動車業界の現在と今後、
そして自動車開発という仕事」
本間雅巳(33期) 日産自動車(株)

未来EiKO募金
EIKO HIGH FOREVER FUND

栄光学園は、創立100周年にむかっ、今後も時代のリーダーを輩出し続けることができるよう、【未来EiKO募金】を設立しました。母校のさらなる発展のため、未来のため、みなさまのご協力をお願い申し上げます。

詳細は右QRコードよりご覧ください。▶



小石川後樂園から伝通院を歩く 23.3.28

「天気予報が見事に外れ、雨天中止」なんて真っ赤なウソ～。とはいえ、晴れのつもりがあいにくの雨。そんな天候にもかかわらず14名もの参加でした。3期佐伯先輩から最も若造初参加小生26期、しかしながら既に還暦は過ぎております。

水道橋駅を10時過ぎに出発。計画書によると、まずは野球博物館に入館です。ただし、計画書には「コロナの関係で入館できるか微妙」なんて注意書きが。3月ということもあり、もうコロナはほぼ終息でマスクもみな外しだした頃。「さすがにコロナの関係で入館できないことはないだろう」と現地に到着。ところがどっこい、博物館にはWBCの優勝トロフィーが……。WBC優勝からまだ一週間、優勝トロフィーを見るための長蛇の列、平日雨天ながらも5時間待ちで、当然ながらあっさり諦めました。

ということで、ドームをかすめて小石川後樂園に向かいます。途中『日中友好会館』立ち寄り、美術館を鑑賞。道草のように入場したのですが、すっかり説明に聞き入っていました。

さて、今日のメインは小石川後樂園です。入口から池に進むと見事なしだれ桜、奥が梅林でその片隅に安政大地震で亡くなった藤田東湖の石碑があります。また、しょうぶ田と桜とのコラボに和みます。

小石川後樂園の団体休憩所で食事をすませ、牛天神北野神社を参拝します。萩の舎跡をかすめながら安藤坂を登り、伝通院へ到着しました。ここには佐藤春夫、柴田錬三郎等の著名人の墓がありますが、変わったところでジョセフ岡本三右衛門神父の供養碑もあります。

14時過ぎに後樂園駅にて解散しました。それと同時に何と憎らしい事に雨が上がり日差しが！今日の雨男は初参加の私だったのか！？

島崎裕之(26期)



伝通院と桜 ▲



日中友好会館にて ▲

玉宝寺・小田原フラワーガーデン散策 23.5.16

今回は、午前10時に大雄山線の小田原駅に集合です。お散歩日和の暖かい晴れのお天気で、25名の卒業生の皆様と幹事役の三春様ご夫妻(6期)と大島先生(14期)がご参加されました。

最初の目的地、天桂山玉宝寺は、曹洞宗香雲寺のお寺です。天文3年(1534)小田原北条氏の家臣坪和(はが)伊予守の建立によるものです。このお寺は、五百羅漢及び十六羅漢などを安置していることから、通称「五百羅漢」と呼ばれています。五百羅漢は、仏の滅後に行われた第1回目の経典編纂に集まった仏弟子を指すといわれ、十六羅漢は、仏法を護持することを誓った16人の仏弟子を指すそうです。柔和なお顔から、険しいお顔まで、表情豊かに、そこに生きて居並ぶようでした。

次の目的地は小田原フラワーガーデンです。五百羅漢駅のホームで電車を待つ間、栄光学園のFacebookページなどを閲覧。柔道や囲碁などでの学生のご活躍や、英語コンテストでは無敵だったことなどでお話が盛り上がりました。飯田岡駅から、フラワーガーデンまでの道のりは、歩道がなく、反対車線に気を付けながらの急な坂道でした。栄光坂で鍛えた健脚により、涼しい顔で登り切ると、諏訪の原公園が広がっていました。大変見晴らしのよい公園で、とても長い「ローラーすべり台」がありました。県立都市公園最長169メートルだそうです。いつか挑戦してみたいです。

途中で少し道に迷うのも楽しく、フラワーガーデンに到着しました。施設は7つに分かれ、温室ドームと梅園、花菖蒲池、そして薔薇園等があります。花菖蒲池のハスは美しいピンク色でしたが、何と言っても生き生きとした薔薇が印象的でした。約160品種360株の薔薇が育てられており、歩いているだけで自然と甘い香りに包まれます。小さな弦薔薇から、大輪まで、色とりどりででした。「クイーンエリザベス」、「聖火」、「プラスバンド」など面白いネーミングです。薔薇に鼻を近づけて新しい香りをみつけると、互いにそれを知らせたり、確かめたりして、みんなで楽しむことができました。約2時間の自由時間で、フラワーガーデンを十分堪能できました。

帰り道は、ほとんどの方がバスで小田原駅まで帰り、そのあとは駅前のライオンで打ち上げです。私はオムライスをいただき、幹事の大島先生は小田原の熱々のアジフライを召し上がっておられました。

栄光学園のファンとして、初めて参加させていただきました。皆さまに代わる代わる、優しく爽やかにお声がけいただき、大変嬉しい一日でした。吉田様をはじめ、事務局の方にもご親切にしてくださいありがとうございました。また皆さまにお会いできますことを楽しみにしております。

平野萌子(27期娘)



フラワーガーデンにて ▲

「栄光同窓カトリックの会」の講演会を、3年半ぶりに、3月18日に栄光学園聖堂ホールで開催しました。本会は、同窓生と学園関係者が、学園の基本理念でもあるカトリックの信仰をより深め、相互に研鑽し、学園の理想実現への協力を目指し、2007年に設立した、同窓会の支部です。今回の講演会では同窓会誌98号に「学園の事務室から一卒業生として事務室に勤務した感想」を寄稿された、24期カトリック信徒である学園事務総括、長屋忠様に講演をお願いしました。1期生から52期までの27名が出席。また、初めてZoom参加を試みました。以下は講演の概要になります。

学園出身の神父様は、帰天された方も含め、一桁期の卒業生で10名、10期代で3名、20期代で3名、それ以降の期で3名になります。在校生本人の申告によるカトリック信者は、高校生で5名、中学生で7名。最近洗礼を受けた生徒は、教皇来日ミサがきっかけとなった1名。現在の教職員の中で信徒は2割を切っています。

学園における宗教活動には、副校長の下に宗教活動委員会と愛の運動委員会があります。宗教活動委員会は、各学年の聖書研究会(旧公教要理)を束ね、福音書などを読み、生徒の自由な討論の場にもなっています。希望者による長崎巡礼、2泊での釜ヶ崎のボランティア活動も続けています。愛の運動委員会では自主参加の生徒による児童養護施設への訪問、そこでの学習ボランティア、校内へのクリスマス招待、ハンセン病療養所への訪問、研修。災害時の募金活動、チャリティー販売等を行っています。校内へのクリスマス招待の際には、保護者の「たんぼぼの会」

に、大いにサポートしていただいています。

現在、学園には神父様は常駐しませんが、イエズス会よりチャブレン1名が派遣され、学校行事でのミサを担当、父親向けの聖書研究会を行なっています。母親のための聖書研究会は「金曜会」呼ばれ、校長先生自ら担当しています。田浦時代から続く在校生、卒業生の保護者信徒による「すみれ会」は校内聖堂の清掃を継続し、年会費を集め、学園の宗教活動のための寄付を続けています。このように、神父様が常駐しない現在の栄光学園の宗教活動を、卒業生信徒の方々が認識し、宗教活動に携わる教員との対話など何がサポートできるかは是非考えてほしいです。

その後の質問討議も活発に行われました。多忙な学年末にもかかわらず参加して下さった現教員からの説明もあり、卒業生の現状認識は深まったと思います。田浦時代には10名を超える神父様が校内で活動、各学年卒業までに学年の3割以上の洗礼者がいました。大船移転後も10名を超える神父様が校内で活動された時期もありました。今とは大きな違いです。神父、シスターの聖職者の激減は、他のカトリック、ミッションスクールでも同様で、お互いに学び合うこともあるのではないかと意見がありました。栄光学園でも、進学校での福音宣教の課題は今後ますます大切だと思います。最後に、Zoomで参加された元校長関根神父様から「栄光の卒業生は、現在の社会で1人ひとりカトリック信徒としても貢献し、母校を見守って」とのメッセージが寄せられました。

大島弘尚(14期)

23.5.13-14

復活！OBの部屋 @栄光祭

2日間で300名以上が訪問

4年ぶりに栄光祭での「OBの部屋」が復活しました。当日は、70期の期委員を中心に運営に協力してもらい、2日間で、300名以上のOBや関係者が来場してくれました。また、聖堂ホール壁面には、フォス初代校長の思い出パネルやこの3年間で実施したOBゼミ・OBフォーラムの講師一覧表を展示し、たくさんの方々が興味を持って、ご覧になりました。

事業部

OBの部屋からYouTubeライブで生放送

今年の栄光祭では、OBの部屋の一角を利用し、「栄光ヒミツキチ presents OBの部屋まるごと生放送@第76回栄光祭～OBと先生の話、12時間でどれだけ聞けるの？」を2日間にわたり開催しました。この企画はオンラインマガジンを運営する栄光ヒミツキチ(詳

細は29ページ)が主催し、1時間ごとに栄光のOBや現役生、教職員の方をゲストとしてお呼びし、その人柄にせまるインタビューをYouTubeライブで生放送したものです。

今年から栄光学園の教職員となった方、高校3年の受験生、同窓会70周年企画の運営である70期同窓会委員など、2日間で総勢14名の方にインタビューを行いました。生放送に出演して下さった皆様、ならびにオンラインでの生放送という初の試みを快諾しお力添えをくださった日野先生をはじめとする教職員の皆様、同窓会執行委員の皆様にご挨拶申し上げます。

生放送の様子は栄光ヒミツキチのウェブマガジン「栄光ヒミツキチ通信」の「イベント・活動報告」より全編ご覧いただけます(ご視聴には栄光ヒミツキチへの登録が必要です。詳しくは29ページをご覧ください)。

栄光ヒミツキチ



YouTubeライブで実況中(左:西村さん(66期)、右:武さん(66期)) ▲



OBの部屋でくつろぐ様子 ▲

同窓会70周年イベント

オール栄光メンバー、みんな集まれ！

2023年度は同窓会発足70周年の節目の年度。同総会から2つのイベントを開催！（詳細はHPにて）

第1弾

①スポーツ大会 (70期企画) ②懐かしの先生との座談会

参加者募集

日時: 2023 10/15 (日) 12:00～16:00
場所: 栄光学園 ①グラウンド・体育館 ②教室
参加申込フォーム(事前お申込ください)▶



①スポーツ大会 (企画:70期)

栄光学園のグラウンドを使って、OBによる若手OB向けのスポ大を開催。種目は、グラウンドでのブラバットによる野球やアルティメット、体育館でのバレーやフットサルなどを予定。(雨天の場合は体育館にて実施。)運動着持参でお集まりください。



②懐かしの先生との座談会

栄光学園の教室で、迫先生と飯野先生による授業座談会を開催。学生時代にタイムスリップしてみませんか？(※席数には限りがございます。ご了承ください。)



第2弾

同窓会70周年記念パーティー

告知

日時: 2024 2/24 (土) 17:00～20:00
場所: ホテルプラム横浜(予定) 会費制
参加希望申込フォーム▶



同窓会発足70周年を記念してパーティーを開催します！

内容は鋭意企画！懐かしの先生方も多数ご招待する予定です。皆さんお誘いあわせの上ご参加ください！

参加ご希望の方は申込フォームにてお申込みいただければ、開催日までに詳細をメールにてお知らせします。



23.8.27

オール栄光ゴルフコンペ 速報



学園チーム ▲

2023年8月27日、第6回「オールEIKOゴルフコンペ2023」を、よみうりゴルフ倶楽部にて開催しました。今回は39期が代表幹事団、20期が副代表幹事団となってコンペを企画し、4年ぶりに表彰式を兼ねた懇親パーティーを開催

することができました。あらためてオールEIKOゴルフコンペのルールを紹介します。

オール栄光ゴルフコンペ ルール

- * 参加資格: 栄光学園OBまたは栄光学園教員の方。ゴルフの腕前、経験年数は問いません。
- * 組合せ: 同期2名をペアに、他期2名との組合せを基本に調整
- * 競技ルール
 - 1) 個人戦
18ホールストロークプレイ、新ペリア方式によるハンデ戦、ドラコン・ニアピンあり
 - 2) 団体戦
・同期4名の合計スコアによるチーム戦、ネット(新ペリア)、グロスの双方で集計・4名以上参加の期の場合は、各々上位4名にて算出(4名未満の場合は合同チーム編成)
・参加者の多い期が、多分有利になります。

さて、当日の様子です。参加者は20期～68期に、小泉渉先生、林直人先生、黒木宏先生(24期)、山田学園事務統括(30期)の学園チームも含めた81名(22組)でした。今回、32期と68期の親子で参加してくれたペアがあり、大変盛り上がりしました。猛暑続きの今年ですが、当日は天候にも恵まれ、ほぼゴルフ場貸し切り状態での、開放感のあるにぎやかなゴルフコンペになりました。なお、当日の参加賞は、栄光学園のロゴ入りのキーホルダー、ボールペン、タオルで、皆さんに好きなものをひとつ選んで貰いました。どれもなかなか素敵でした。

ゴルフコンペでの皆さんのスコアや各賞、懇親パーティー、はたまた開催までの幹事のドタバタ記などの詳細は、追って同窓会HPにて報告いたしますが、このアラムナイ誌面では、速報として、今回の幹事期は20期になりましたことを報告いたします。

来年度も開催しますので、腕前をさらに磨いて、参加賞目当てで、初めてだけど同期に強く誘われて、動機やきっかけはなんでも結構ですので、是非ともご参加ください。



団体優勝の20期 ▲

栄光ヒミツキチとは

栄光生が記事を書き、栄光生が編集し、栄光生が読めるオンラインマガジンです。「栄光生を縦にも横にも繋げまくる」をモットーに、栄光生の経験や思いを気軽に発信し、栄光生が知らない世界を手軽に知ることができる媒体を目指します。週に一度は何かしらの記事が更新されます



23.8.26

栄光学園生徒会×栄光ヒミツキチ

ALL EIKO SUMMIT

この度、なんと現役生の生徒会から、「現役生とOBが交流する場をつくりたい!」という提案があり、新たな取り組みとして現役生とOBによる双方向型のイベント「第1回 ALL EIKO SUMMIT」を2023年8月26日(土)午後15時に生徒会と合同開催しました。

『現役生とOBが一堂に会し、数人のグループに分け、仕事の話、研究の話、趣味の話...など世代を越えてざっくばらんに話すイベント』として参加者を募集したところ、当日は、OBは24期から70期まで17名、現役生は72期(高3)から77期(中1)まで20名、計37名が参加するにぎやかな会になりました。

はじめにOBから簡単な自己紹介を行った後、グループに分かれてトークセッションを開始。40分のトーク×3ターンを行いました。どのターンも熱のこもったトークが繰り広げられました。終了後には「現役生のみならずOB間でも斜めの繋がりを作ることができた」「雰囲気がよく雑談もしながら将来のことも聞くことができた」「40分では足りないほど話が盛り上がって楽しかった」という声をいただきました。

企画構成の反省点も踏まえ、第2回も企画していきたいと考えております。ご参加くださった皆様本当にありがとうございました!今回参加された方もされなかった方も、ぜひ次回の企画にご期待ください!



テーブル毎にOBと現役生が混じってフリートーク ▲



3時間のおしゃべりを経ての集合写真 ▲

【協力者、募集中!】

栄光ヒミツキチは、書いてみたいことがある方や記事の編集に携わってみたい方を大募集中! もちろん事前知識・スキルなどは一切不要。ご興味ありましたらeikogakuen.univ@gmail.com ご連絡ください!

栄光ヒミツキチRadio@YouTube

毎月1回土曜21時から放送中!

#61 実行委員長と栄光祭をふりかえる!

…栄光祭実行委員長73期Yさんをゲストに迎え

栄光祭を総括。

#62 司法試験体験記ライターに聞く「法曹への道」

…司法試験に合格してホヤホヤの

66期湯澤さんに聞く法曹界とは。

インタビュー駅伝

第13回:Tさん(73期/2023年度生徒会長)

…多彩で経験豊富なTさんを存分にご堪能あれ。

第14回:藤井悠さん(62期/消化器外科医師)

& 藤井樹さん(66期/ネットワークエンジニア)

…初のいとこ共演! 親戚が栄光生ってどんな感じ?

特派員レポート

現役生&先生の栄光学園なう語り

…栄光の現役中学生・高校生・先生が

身のまわりのことをゆる〜くレポート。

栄光生の自由発信場(実名編)

黒木宏の雑談場(24期 黒木宏さん)

…今年3月に定年退職された黒木先生による

授業さながらの雑談を大公開。

リアル脱出ゲーム

甲子園出場レポート(73期Yさん)

…今夏開催されたリアル脱出ゲーム甲子園に

現役生が本戦出場!

コラム「学」

地理学

…身近な場所が地理学専攻からどう見えるか

を紹介する、「学」を知るシリーズ第1弾。

Information

L.S.T.の歌をHPで聴けます！



この表紙を見て、「懐かしい！」って思う方いらっしゃると思います。「自分の代ではこんなのを見たことないぞ？」と思う方もいると思います。しかし、L.S.T.と言われると、「ん？あぁ！」と、思い出される人がグーっと増えてくるのではないのでしょうか？

デザインや収録曲に変化はあれど、栄光生がイベントやキャンプに行ったときに、みんなで歌うときに開いた歌集

”Let’s Sing Together”

です。キャンプ先での夕食後の夕涼み、星空、先生のギターや伴奏を思い出される人も多いかもしれません。(※2000年ごろ以降はL.S.T.は無いそうです)

このL.S.T.に掲載歴のある歌を10期のコーラス隊が歌い上げた音源データが同窓会に寄せられ、同窓会HPで常設公開となりました。この歌声に穏やかに包まれる何とも言えない幸福な感覚は、私の語彙ではアラムナイの記事として伝えることはできません。

現在公開中の音源は、

- Eiko High Forever
- Pirates’ Song
- キャンプ行
- 山賊の歌
- 千里の波濤
- 緑なす相模野

になります。皆さん、是非、ご自分の耳でご視聴ください。また、同窓会の開催時や、部のOB会など同窓生が集まったときも、是非ご利用ください。

広報部



Alumuni 創刊号から全号公開！



この度のアラムナイ100号の発行の節目にあたり、これまで発行されてきた”The Eiko Alumni”をすべてPDF化し、1～82号についてはパスワード保護で同窓会HP上で公開しました。パスワードはEACONにログインすることで入手できます。

同窓生の活躍、懐かしい先生方の写真・エピソード、時代背景、学園と並走する同窓会から見える学園の歴史も垣間見えます。学園通信からの抜粋記事では、自分たちが学園生だった時の記事にも出会えるかもしれません。全号の収集にあたり、事務局に未収集号の情報のご提供を頂いた鈴木宙明様(4期)には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

広報部

EACON登録情報更新のお願い

EACONへのIDは封筒の宛名シールに記載

4月から大学生、大学院生、新社会人、6月の異動、10月からの転籍、結婚などの新生活！で、住所、勤務先、メールアドレスなどが変更になった方、結構いらっしゃると思います。そんなときは、EACONの登録情報を更新してください。

登録情報の更新作業は、EACONにログインして、ご自身でできます。「ID?」「パスワード?」の場合でも、まずはEACONにアクセスしてください。IDは本誌送付用封筒の宛名シールに記載されています。受信できるメールアドレスが登録できていれば大丈夫です。受信可能なメールアドレスが未登録、EACONにアクセスできない等の場合は、思い切って同窓会事務局までご連絡ください。事務局としても実は助かります。

それ知っていれば～、もし連絡くれたら～

「EACONって、どんな時に使うの？」その質問よくあります。もちろん、毎日使うということはないと思います。が、「先日のインターンで来ていた大学生、栄光卒って知ってたらなあ…」「名刺交換した〇〇さん、あつ先輩…」「今度は〇〇社の担当かあ。〇〇社に…おっ後輩いるじゃん…」「あそこに開業した医院って栄光OBだったの！じゃあ…」などなど、こちらから連絡する必要はなくても、こちらにコンタクトをしてさえくれれば、チャンスのきっかけを得られる同窓生、ちょっと救われる同窓生、知っていれば「初めまして。栄光〇〇期の××です」でスムーズに始まるコミュニケーション、実は案外あります。

「コンタクトしてくれれば～」「知っていれば～」は勿体ない。つながるEACONへ、アップデートをよろしくお願ひします。

更新 for Others の精神で。

総務部

訃報 2023年3月1日以降判明分

卒業生

民永 敬氏	(9期)	2021年 2月 3日
福田昭紀氏	(14期)	2021年 7月
荒関淳哉氏	(40期)	2021年 12月 4日
前島啓一氏	(16期)	2022年 1月 2日
中村雄洋氏	(2期)	2022年 8月 16日
民永 巖氏	(7期)	2022年 10月 5日
岩崎菊男氏	(11期)	2022年 12月 17日
金岩 宏氏	(32期)	2023年 1月 29日
木暮浩明氏	(2期)	2023年 2月 10日
飯田則幸氏	(9期)	2023年 2月 11日
川島不二雄氏	(8期)	2023年 2月 16日
田中正實氏	(7期)	2023年 2月 17日
武田 悠氏	(9期)	2023年 3月 4日
宇和島洋文氏	(10期)	2023年 3月 17日
真田幸男氏	(3期)	2023年 3月 23日
山室 弘氏	(12期)	2023年 4月 7日
高宮茂巳氏	(13期)	2023年 4月 17日
菊地 真氏	(32期)	2023年 5月 16日
小濱洋央氏	(32期)	2023年 5月 28日
岩崎 透氏	(17期)	2023年 6月 4日
伊東清行氏	(3期)	2023年 6月 19日
坂間太郎氏	(50期)	2023年 7月 16日
八木隆明氏	(2期)	2023年 7月 17日
五味丈夫氏	(8期)	2023年 7月 20日
松村龍太郎氏	(31期)	2023年 7月 29日
北村富治氏	(11期)	2023年 7月 29日
森 一弘氏	(5期)	2023年 9月 2日

謹んでご冥福をお祈りいたします。

追悼ミサ 11月3日

同窓会では、これまで総会当日に前年に亡くなられた教職員、同窓生の追悼ミサを行ってきました。コロナ禍で、2020年より延期され、この3年間で亡くなられた教職員は12名、卒業生は170名を超えます。カトリック教会の「死者の月」である11月の最初の休日である11月3日午後2時より学園聖堂で追悼ミサを行います。

連絡のつくご遺族もご招待し、ミサ後聖堂ホールにて歓談の場も用意いたします。カトリック信徒でなくてもより多くの卒業生の参列を望みます。

追悼される方々のお名前は、同窓会HPにて告知いたしますので、ご確認ください。当日は1時半より受付しております。なお、近隣の方のご迷惑になりますので、お車での来校はご遠慮下さい。

次号(第101号)

2024年4月発行予定。

投稿歓迎(同窓会HP、Alumni)

同期会や支部のイベント報告、個人の体験記などの投稿を歓迎します。標準サイズは文章1,200文字程度＋画像1～2枚。同窓会事務局宛てメール(または封書)でお送りください。

記事によっては、同窓会HPのみ、Alumniのみの掲載となることがあること、また、掲載にあたって文言などが編集されることがあることを、ご承知おきください。

同窓会Facebookで告知しませんか？

同窓生へのちょっとした告知をしたい…同期だけでなく、部活の先輩や後輩にもお知らせしたい…そんな時、同窓会Facebookを利用してライトな告知をしてみませんか？

告知ご希望の方は、同窓会Facebookアカウントにメッセージをお寄せください。

同期会開催・支部活動のサポートします！

「同期の連絡先を知りたい！」「イベントの告知を同窓生にしたい！」こんなとき、同窓会事務局がお手伝い致します。

卒業後10、25、50年目に該当する節目の同期会の開催には最大10万円の補助金をサポートの制度があります(※条件あり)。節目の開催がコロナ下で延期となってしまった場合は、サポート対象になることがあります。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせください。

会費納入の案内届いていませんか？

会費の納入には【口座振替(推奨)】と【お振込】の2通りの方法があります。

今年度の会費がまだ納められていない方には、7月に口座振替用紙とコンビニ払い用紙を送付しております。受け取られておりましたら、納入をよろしくお願ひします。「自分は払っていたっけ？」不明な方、会費納入についてご不明な点がございましたら、遠慮なく同窓会事務局までお問い合わせください。

編集後記

「節目の100号だと編集はプレッシャーだったでしょ～」と思われるかもしれませんが、100号のそれよりも通常より2週間早い〆切設定の方がプレッシャーです。折角の100号なのに、この編集長で腹をくらざるを得なかった新執行部の面々の方が、よほどか心臓に悪かったのではと思慮します。

当の編集長は、「100号に向けて、アラムナイを1号から目を通すきっかけをいただけたことの方が楽しかったなあ」と呑気です。

と、〆切に近いのでとりあえず編集後記は埋めましたが、現時点(初稿入稿日の4日前)でも、原稿案の来ない記事があります。プレッシャーです。編集中心記でした。 広報部 M(37期)

全てのお問い合わせ先

栄光学園同窓会事務局

〒247-0071 神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1

Tel/Fax: 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org

The EIKO ALUMNI Vol.100

contents

ご挨拶	2
【特集】アラムナイ100号までの道のり	4
【特集】編集こぼれ話	8
OBだより	10
学園だより	16
同窓会information	20

同窓会会報100号記念特別号

【特集】
アラムナイ100号までの道のり
編集こぼれ話

The EIKO ALUMNI Vol.100

【発行日】2023年10月15日

【発行人】栄光学園同窓会 河原光博 (37期)

【編集・デザイン】広報部 村井基彦 (37期) 川村貞知 (37期)

【web】事業部 大須賀喜彦 (39期)

【印刷】東湘印版株式会社

【発行】栄光学園同窓会

〒247-0071神奈川県鎌倉市玉縄4-1-1 Tel&Fax 0467-44-8875

e-mail: admin@eikoalumni.org



栄光学園同窓会 HP 

<https://www.eikoalumni.org/>



同窓会からの最新情報をお届けします。

栄光学園同窓会 Facebookページ 

<https://www.facebook.com/eikoalumni/>



EACON [名簿&コミュニティサイト]

<https://eacon.alumnet.jp/>